

湿地を生かした地域づくりと そのしかけ

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議
第 11 回学習・交流事業の記録

2020 年 3 月

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議

目 次

I. プログラム	1
II. 学習・交流会	3
1. 開会挨拶	3
大場 一浩 宮城県大崎市産業経済部世界農業遺産推進課 課長	
2. 趣旨説明	3
コーディネーター：朝岡 幸彦 東京農工大学農学研究院 教授	
3. 基調講演	6
1) 湿地を生かした地域づくりを活性化させる20のアイデア	6
菅山 明美 NHKエンタープライズ 人事・総務 部長	
2) 大崎市の湿地を生かした地域づくり	19
伊藤 康志 大崎市長	
4. ポスター交流会（政策実践交流）	23
「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」	
5. 湿地を生かした地域づくりについてのご紹介	23
1) 琵琶湖の内湖『西の湖』における取組について	24
小西 理 近江八幡市長	
2) 「コラボレーション」による水辺環境の保全	26
宮本 泰介 習志野市長	
3) 渡良瀬遊水地の賢明な活用による地域活性化に向けた小山市の取組について	28
大久保 寿夫 小山市長	
4) 栃木県野木町の取組紹介	30
真瀬 宏子 野木町長	
5) 浜頓別町が目指すワイズユース	32
菅原 信男 浜頓別町長	
6. まとめ	33
7. 閉会	39
III. 宮城大崎宣言	40

I. プログラム

第11回 ラムサール条約登録湿地関係市町村会議 学習・交流会

「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」

1. 目 的：

ラムサール条約に登録されている湿地及びその他の湿地の適正な管理に関し、関係市町村間の情報交換及び協力を推進することによって、各地域の湿地保全活動を促進することを目的とするものです。

また、学習・交流会においては湿地の保全や活用において活躍する自治体・NPO・団体関係者が意見や情報交換する場を設けることで、湿地のワイズユースのための連携を図り、個々の活動および地域の活性化を促進することを目的としています。

今年度は、3年に1度の市町村長会議であるため、学習・交流会は市町村長研修会を兼ねて、ポスター交流会（政策実践交流）をいたします。

2. 開催日： 11月20日（水曜日）9:00～12:30

3. 会 場： アインパルラ浦島 所在地：宮城県大崎市古川李塚 3-2-2

4. 後 援： 日本湿地学会

5. プログラム：

司会 大場 一浩（大崎市産業経済部世界農業遺産推進課 課長）

➤挨拶（9:00～9:10）

➤趣旨説明（9:10～9:20）

コーディネーター：朝岡 幸彦（東京農工大学農学研究院 教授）

➤基調講演①（9:20～10:20 質疑応答含む）

「湿地を生かした地域づくりを活性化させる20のアイデア」

菅山 明美（NHKエンタープライズ 人事・総務 部長）

➤基調講演②（10:20～10:40 質疑応答含む）

「大崎市の湿地を生かした地域づくり」

伊藤 康志（大崎市長）

➤ポスター交流会（政策実践交流）（10:40～11:10）

「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」

➤湿地を生かした地域づくりについてのご紹介（11:10～12:10 質疑応答含む）

近江八幡市「琵琶湖の内湖『西の湖』における取組について」

小西 理（近江八幡市長）

習志野市「『コラボレーション』による水辺環境の保全」

宮本 泰介（習志野市長）

小山市「渡良瀬遊水地の賢明な活用による地域活性化に向けた

小山市の取組について」

大久保 寿夫（小山市長）

野木町「栃木県野木町の取組紹介」

真瀬 宏子（野木町長）

浜頓別町「浜頓別町が目指すワイズユース」

菅原 信男（浜頓別町長）

➤まとめ（12:10～12:30）

➤閉会・解散（12:30）

Ⅱ．学習・交流会

1．開会挨拶

大崎市産業経済部世界農業遺産推進課長 大場一浩

皆様、おはようございます。ラムサール条約登録湿地関係市町村会議第 11 回学習・交流会を開催したいと思います。司会を務めさせていただきます大崎市産業経済部世界農業遺産推進課課長の大場と申します。よろしくお願いします。

進行につきましては、これまで市町村会議学習・交流会のコーディネートをさせていただいております朝岡先生にお願いしたいと思います。こちらの資料の 3 ページ目に、朝岡先生と本日講演いただきます菅山先生のプロフィールを掲載してございますので、ご覧いただきたいと思います。それでは朝岡先生、よろしくお願いいたします。

2．趣旨説明

コーディネーター 東京農工大学農学研究院教授 朝岡幸彦

皆さん、おはようございます。昨日、所用がございまして、意見交換会から参加させていただいております。大崎市には美味しいものや美味しいお酒もあるし、各地からいろいろなお土産やお酒があり、皆、美味しいとしか言いようがない、各地に自慢のものがあるのだなと思いました。今日はラムサール条約登録湿地の人材、それぞれの地域で活躍されている職員の方との交流もできればと思っています。

私の出番はだいぶ前倒しになって、菅山先生の講演の前に何を話そうかと困っています。お手元の資料の 7 ページ、8 ページをご覧ください。先ほどご紹介いただきましたが、東京農工大学に勤めております。私は農学部の教員なのですが、専門は教育学で、教育学者です。今日は法政大学の笹川先生もいらっしゃいますが、社会教育を中心に環境教育ということで、湿地についても研究しています。学習・交流会のコーディネーターを仰せつかって、ようやく 3 年経ったところです。



1．学習・交流会（市町村長研修会）の目的

学習・交流会の今日の流れについてご説明します。本年度のテーマは「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」です。これまでの経過を踏まえて、今年度はこのテーマになりました。2009 年に加賀市で開催された第 1 回の学習・交流会から数えて、今年で 11 回目ということになります。自治体だけでなく NGO やいろいろな団体、市民も含めて、ラムサール条約登録湿

地を中心に地域づくり、最近は産業振興を意識するようになっていきます。こういうことを交流し、お互いにキャッチアップして勉強しあって、良い地域づくりをしていこうという会だと思っています。

今年度は3年に1回の市町村長会議ということで、最前列に市町村長の皆さんにお並びいただいております。その関係で今年度は昨年までとはちょっと違った進行方法になっていますので、ご協力をお願いいたします。

2. 3年間のテーマ

その前にこの3年間のテーマと、これまでどういう話をしてきたか、簡単に説明させていただきます。2をご覧ください。この3年間、大崎市に会長市をお願いしていますが、3年間を通してのテーマは「湿地を生かした地域づくり戦略」です。素晴らしい湿地があることを前提として、地域づくりにどう生かしていくかというテーマでした。

1年目は2017年に「持続可能な地域づくりとラムサール条約登録湿地の保全・活用」ということで、SDGsが提起され、これに関わって議論していただきました。

2年目は「市町村間の連携による湿地を活かした地域づくり」ということで、ダムカードが人気があるので、湿地カードをつくったらどうか、湿地カードは語呂がよくないのでラムカードが美味しそうでいいのではないかと、ラムカードのデザインをしていただきました。

3年目の今回は、「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」ということで、議論いただきます。当初は実際にラムカードをつくって配布し、どう活用するかというところまで行くはずだったのですが、もう一手間かけようと、敢えてラムカードを完成させるのを先送りさせていただきました。その代わりに、NHKエンタープライズの現役の部長の菅山さんに、自由な発想からラムサール条約登録湿地を生かした地域づくり、戦略について考えていただくことになりました。

3. 過去2年間の実績

この2年間、第一線の研究者の先生をお招きして基調講演をしていただきました。2年前は日本湿地学会の会長である九州大学の島谷先生に来ていただきました。そこでダムカードの例が出たので、ラムサールカードの話になりました。

昨年は鶴岡市で京都大学の岡田先生に講演いただきました。岡田先生のご専門は地域経済です。岡田先生は自治体問題研究所という自治体問題のシンクタンクの理事長をやっておられます。湿地を活用することは地域づくり、地域経済についてもきちんとした戦略をもってやっていくという視点からお話いただきました。

4. 本日の進め方

本日、基調講演をお願いする菅山さんは、今までの先生方とはかなりトーンが違います。きっと楽しい基調講演になると期待しています。昔からの知り合いなので、平気でいろいろなことを言えるのですが、菅山さんは長くNHKエンタープライズで企画や事業を担っておられ、その経験を踏まえてお話いただきます。「湿地を生かした地域づくりを活性化させる20のアイデア」、どんなアイデアが出てくるのか、楽しみです。それを持ち帰りいただいて、それぞれの自治体での地域づくりに役立てていただければと思っています。

せっかくの機会ですので、ここで名刺交換して交流させていただいた皆さんとは今日に限らず、これからもいろいろな交流をつなげていければと考えています。

その後、会長市である大崎市の伊藤市長から問題提起として発表をお願いしたいと思います。伊藤市長のお話の中に出てくるとは思いますが、大崎市では湿地に関わって世界農業遺産「大崎耕土」を登録しています。昨日の夕方、仙台で乗り換えた時に、新幹線のホームに大崎耕土のおにぎりのお弁当のポスターがでかでかと貼ってあり、思わず写真を撮りました。残念ながらお弁当は売り切れていましたが、それくらい人気があるのと思います。そういうおもしろい生かし方をされているお話が聞けるのではないかと考えています。

基調講演と発表を受けて、ポスター交流をさせていただきます。各自治体の皆さんに急をお願いしましたが、よくこれだけご準備いただいたと感謝しています。せっかくなので、参加いただいた全ての自治体についてはポスターを貼って交流しましょう。貼りっぱなしだとなかなか中身をじっくり読む機会がないので、敢えて私どもが参加している学会のやり方を真似て、ポスター・セッションを行います。それぞれの自治体ごとに、ポスターを前に説明していただく時間を設けました。30分間という短い時間ですが、いろいろな自治体のポスターを見ていただければと思います。8分ずつ3回に分けますので、最低3つは聞いてください。メモ用紙をお配りしますので、おもしろそうだと思うところをメモしていただければと思います。

その後、「湿地を生かした地域づくりについてのご紹介」ということで、5つの自治体の市町村長にご登壇いただき、ラムサール条約登録湿地を中心としたまちづくりについて、ご紹介いただきます。以上を踏まえて、最後に皆さんと一緒に感想とまとめを行いたいと思います。

2つだけ、かなり切実なお願いがございます。1つは、今回こういうやり方にしたのは、市町村長会議ということで、市町村長の皆さんにご報告いただくわけですが、危惧しているのは話が長くなることです。大変僭越ではございますが、大崎市長の部分も含めて、もしかするとチンと鳴らすかもしれません。チンと鳴らしたら絶対止めてください。それぞれ自信を持っておられることは非常にわかるのですが、ここで延びてしまうと後の自治体が発表できなくなる危険性がございますので、なにとぞ発表時間の厳守をお願いいたします。

もう1つ、これだけやらないと帰れない事情があります。そちらのチラシと並んで私の方で用意させていただいた本のチラシがあります。この3年間のおかげで私と笹川先生は1つの業績、研究成果をあげることができました。並べてあります『湿地教育・海洋教育』という本は、文科省の科学研究補助金をもらって共同研究した成果です。これをチラシと一緒に置いておきますので、お手にとってご覧ください。見本として持ってきましたが、先着3名様には超割引でご購入いただけるようにします。欲しいという方がいらしたらぜひ、私にお声かけいただければと思います。3冊売らないと帰れないという私と笹川先生の使命ですので、よろしく願いします。

いろいろなこととお話しましたが、今日はとにかく皆様方の地域づくりの実践を交流することが主眼ですので、半日ですが、ぜひともお付き合いいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それではこれから基調講演の①としてNHKエンタープライズの人事・総務部長の菅山明美さんから「湿地を生かした地域づくりを活性化させる20のアイデア」ということで、ご講演いただきます。菅山さん、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 基調講演

1) 「湿地を生かした地域づくりを活性化させる 20 のアイデア」

NHK エンタープライズ 人事・総務部長 菅山明美



朝岡先生、ありがとうございます。ご紹介に預かりました菅山明美でございます。よろしくお願いいたします。私は学者の先生達とはちょっと違った話になると思いますが、お付き合いいただければと思います。

朝岡先生からお話をいただいた時には、前回までに基調講演をされた先生達がみなさま立派な方でしたのでお断りしようと思ったのですが、大崎は私の父のふるさとで、すぐそこなのです。父は去年亡くなったのですが、母親と縁の薄い人で、私は祖母を知りません。父が亡くなった後、祖母のお墓に行きたいと思っていたので、いただいたこの機会はきっと祖母が「来なさい」といっているということなのだろうと思いましてお受けしました。

昨日は蕪栗沼にマガンを見に行ってきました。これが父の見ていた風景がなんだなと思いながら、見ました。今日はご縁をいただき、ありがとうございました。

私はいろいろな活動をして参りましたが、様々な企画を考えることを仕事にしています。今までの私の仕事の中から皆さんがヒントを持って帰っていただけるようなことを紹介したいと思っています。

本日のタイトルは「湿地を生かした地域づくりを活性化させる 20 のアイデア」です。通常のアイデアでは企画屋の名が折れますので、皆さんが驚くような奇抜なアイデアを持ってきました。それをどう持って帰るかは、皆さん次第かと思います！（笑）

私のプロフィールはプロジェクト・デザイナーで、企画を考えるのが専門です。今は人事部にありますが、これは次世代に向けた人材の育成ということで、人をデザインしておりまして、企画の仕事と実は同じではないかと考えながらやっています。

日本初の大規模なプロジェクションマッピング

私の大きな仕事のひとつは、復興支援ということで、会津若松市と白河市で7年間にわたってプロジェクションマッピング「はるか」を行ってきました。毎年違う題材で、だいたいお越しいただくは3万人くらいです。会津若松の場合は、東山温泉の稼働率は3月の終わりは30%くらいだったそうですが、マッピングの日は100%になりました。イベントを行った結果、人が来て、さらに地元にお金が落ちる。この3つがないとやる意味がないと思ってやってきました。

きっかけは、2012年の東京駅のプロジェクションマッピングで、日本で大規模なプロジェクションマッピングは初めてでした。私共のイベントは、たいがい民放さんは報道してくれないのですが、このときは各社来てくれまして、次の日のワイドショーが全部プロジェクションマッピングになりました。2万ルーメンの機械を40台弱使ったのですが、日本にあるもので

は足りなくて海外からも調達しました。

夜中でないとリハーサルをできないので、終電が終わってからリハーサルをしました。リハーサルは隠せないの、夜中ですが通りかかった人には見えますのでSNS等で話題になり、当日それはたくさんの方が来てくれました。日本にプロジェクションマッピングという文化が根付く瞬間を見せてもらいました。新しい文化はこうやって弾けて走り出すんだと体感した瞬間でした。それから復興支援のプロジェクションマッピング「はるか」を始めました。

小学校での出前型プロジェクションマッピング

イベントというものは「何月何日の何時にここに来て見なさいよ」という、お客様に自ら足を運んでいただくものです。「この日のこの時間に、ここに来てくださいね」というタイプのイベントではなく、学校にこちらから出向く出前のようなマッピングができないかと考えてつくったのが、この「学校プロジェクションマッピング」です。福島県の小学校と中学校あわせて4校で行いました。

このような技術を使うと、いろいろな学校の窓でやることができます。五時限目に教室に行ってカメラマンとともに全校生徒の写真を撮り、その場でマッピングのプログラムに入れこみます。子どもたちはいったん帰って、夕方6時に家族と一緒に学校に来てもらう。そして暗くなりますと、自分の校舎に自分たちの写真が投影される企画です。これは出前型のプロジェクションマッピングで、東京駅や鶴ヶ城でやる大きなマッピングをデリバリー型にするという企画を考えて、技術的に整えて行ったものです。VTRでお見せしたいと思います。

トラック1台に全ての機材を積み込んでいます。当日、学校に着いたら、トラックの横っ腹を開けます。そこにはプロジェクターや機材がすでに設置されていて、あとはスピーカーだけを前にだしたらもうマッピングができる仕組みです。

これが小学校にプロジェクションマッピングを映したのですが、何が起こるかということ、お父さんとお母さん達は200人くらい来ますが、自分の子どもの写真を撮るのに必死になって、肉眼では何も見ていないのです。それでは、同じものをもう1回やりますよと。そうすると今度はゆっくり見られます。子どもは本当にいろいろで、学校によってきれいに並ばせて見せる学校もあれば、自由に集まって見る学校もある。もちろん、どちらでもいいのですが、投影されている校舎のほうを見ないで後ろのトラックに積んである機械だけを見ている子どもがいるのです。そういう子は、将来コンテンツをつくる技術者になってくれそうですね。「これからの映像の世界をよろしくね」と思いました。そのくらい、目の前で見たことのない何かが発見されることは大きな影響があるのだと、やってみて初めてわかりました。

ご紹介したようなプロジェクションマッピングには結構なお金がかかっています。自治体の予算だけではなかなか難しいです。それでスポンサーをお願いしていくのですが、学校だとPTAや自治体の力だけでできる。こういった小規模だけど出前できるというタイプのものもないと文化は広まっていけないように思います。

私は母が会津若松出身なので、復興支援をやりたいとずっと思っていて機会に恵まれて7年間、プロジェクションマッピングをすることができました。さらに福島に何かエンジンをかけたいと思い、勝手に考えた企画があります。県のみなさんや市長にお見せするといいねといただけています。そこからどうやって実行までもっていくかが手腕が問われるところです。今日は、勝手に作ったその企画書をお見せします。福島では誰もやるとまだ言っていませんが、

こうなったらいいねという企画書です。企画書は普通紙でつくと思うのですが、映像でつくるとすごく濃くなります。

ビデオ上映

いかがでしょうか。ここから実行やスポンサーのみなさんに働きかけていくのですね。ものごとは一つのアイデアとやりたいという意味から始まります。今日はそんな話から、湿地を生かした企画づくりを考えていけたらいいなと思います。

一番重要なことはゼロを1に変える実行です。01（ゼロイチ）の実行ができる人は皆さんの自治体にいらっしゃるでしょうか。これができる人は特殊な人だと思います。私が最近、力を入れている3ポイントがありますのでご紹介しますね。

まず、「シンギュラリティ」これは、市長や町長の皆さんはご存じだと思います。

私は市長さんや町長さんが一番大好きです。なぜかというと、人間の手が届く範囲があると思うからです。グローバルと言っても、大海に米粒を投げるような作業は、なかなか手ごたえがないと思うのです。市長の皆さんが一番元気です。私は白河市の鈴木市長も会津若松市の室井市長も大好きです。次々と様々なことに挑戦しておられると思います。みなさんもそのようにかんじられているのではないかと想像しております。

シンギュラリティ

シンギュラリティはどういうものかという、今まで世の中は右肩上がりです。ゆっくりと上がってきました。しかしもう違います。一見、何も起こっていないように見えても、ある日突然おおきなカーブで急激に進化していく。例えば、SNSです。5年前、SNS、Twitter、YouTubeは子どもの遊びだと思われていましたよね。ところが5年間ほどでトップメディアになってしまった。まだ大丈夫、子どもの遊びじゃないのと思っていたらギョーと。

コダックのフィルムがだめなのは有名な話ですが、一番最初にデジタルカメラを開発したのはコダックでした。けれどもフィルムからの方針転換をしなかった結果、あっという間に会社がなくなってしまった。というのがシンギュラリティです。まだ何も起きないと思って安心していると、突然巻き込まれるリズムで進む世の中になっていることを、皆わかっていないといけません。いま思うスピードの5倍のスピードで世の中は動いています。まだ大丈夫と思っても、まったく大丈夫ではないということが、ある日突然起きます。こういうことを覚えておかないと、たぶん日々の生活がちょっとずつずれていくのだと思います。

マインドフルネス

マインドフルネスという言葉をよく聞くと、思います。人間の進化が今の時代に追いつけなくて、気持ちが落ちてしまう人がいます。そこで、どうやって自分をキープしながら日々を過ごしていくか、仕事をしていくかということがマインドフルネスです。これが01（ゼロイチ）と関係があるように私は思います。

与えられた仕事をこなしていく人が、日本人の大半だと思います。朝岡先生の領域でもありますが、educationは、学校で先生から「はい、これをどうぞ」という教育がされてきました。それでは自発的に何をするか思いつかない、その教育法ではだめではないかと言われています。

今は learning、学ぶ、自分が学ぶ、どうやって学ぶ、あなたが考えてあなたが何をしたいかということを考えていくことが、時代的にイコールだと思います。

仕事をこなす人から仕事を創造する人、自分でこの仕事をやりたい、やるべき、そのためにはこうしたらいいと、自分でクリエイトできている人達が何人いるかが、実行力 01（ゼロイチ）にかかってくると思っています。私は今、人事部にいて、あの手この手で時間をかけて仕事を創造する人をつくろうとしています。

デザイン・シンキング、デザイン思考

デザイン・シンキング、デザイン思考のセミナーに行ったことがある人はいますか。デザイン・シンキング、デザイン思考はアメリカで考えられたもので、企画発想法です。脳の枠を外して発想するものです。

その仕事をやり続けている人が常識的に経験的にそれはやれない、今までやっていない、だめだということになっているという枠が発想を邪魔してしまっているという考え方です。みんなが「それはできないんです、だめなんです」といったところにこそ、チャンスが隠れているという考え方です。デザイン思考で今有名な慶應大学の前野隆司先生も同じようにおっしゃっています。

スーパー・ブレインストーミング

さらに、私は最近、ブレインストーミングを脳の嵐として、SUPER 脳嵐というのを最近考えていろいろな所で試し始めています。

これは、東京農工大学の朝岡先生のクラスで ESD 講義をした時に、SUPER 脳嵐を行ったものです。「SDGs をメディアを使って普及させるには？！」ということで、だいぶ時間をかけて、学生さんたちが模造紙にポストイットでアイデアをどんどん出していくのです。

その結果、出現したアイデアは「SDGs 認証システム」でした。SDGs を認証して、何かの現象があると「それ SDGs」「それいいね」という感じでやっていくのがどうだろうと企画的に使えるアイデアが出ました。

もう一つ、毎年、清里ミーティングという環境教育の専門家たちが 150 人くらい集まって様々なワークショップを行うイベントがあります。そこで先週の金曜日、SDGs を何とかしようという SUPER 脳嵐をやってきました。この時は 15 人限定で参加を募集したのですが、あっという間に満席になって、様々な人たちがアイデアをどんどん出していきました。

アイデア自体は「SDGs と胃袋」とかおもしろいものがいろいろありまして、そのアイデアをグルーピングして、絞って行って、さらにそこを深めていく作業を何度もすると、いろいろなアイデアが出てきます。ここで「子どもに SDGs をわかってもらうには」というタイトルでやって、みんなが注目したのは、「ザ・我慢」です。

昔、学生が我慢するというテレビ番組があったのですが、覚えていますか。我慢と SDGs をつきつめていくと、何かおもしろいアイデアがでるのではないかとということで、「何とか禁止」「ズボン禁止」「トイレに行くの禁止」などをして、「禁止から解放された時に、そのありがたみを子どもに体験させるのはどうか」とか、いろいろなアイデアが出ました。

湿地を生かすアイデア

これから、湿地を生かすアイデアを出します。「何言っているの？」というアイデアです。皆様が向こうの方までシューッと引いてしまうか、「おもしろいね」とこっちに来てくれるかは、皆様の愛情と脳みそにかかっています。はっきり申し上げますが、ここから先はものすごくくだらないアイデアがいっぱい出ます。そのくだらないアイデアを、皆様の脳を使ってインスパイアして、自分の脳の枠の中からさらにその先のアイデアを出していただいて、自治体に帰って、様々な所で湿地を生かすアイデアに使っていただきたいというのが今日の趣旨です。

皆様よろしいでしょうか？ もし、「そんなバカな」「くだらない」と思ったら、「自分の頭が硬いかもしれない」と思っていただいて、温かい気持ちでこの先のアイデアを見守っていただきたいと思います。

大丈夫ですか？ 行きます！ アイデアを受け入れていただき、さらにその先にご自身のアイデアを乗せていってくださいね。

まず、皆さんの湿地のいろいろな活動のイベントやホームページを拝見してそこから情報をとらせていただき分析しました。その結果、だいたいこういったカテゴリーに分かれると思っています。

湿地に関する様々な誘致活動、広報、イベント

まず湿地に関する様々な誘致活動、広報、イベントをまとめると、1つは「みる」シリーズ。なんとか観察会、バードウォッチング、探鳥会、なんとか見学会みたいなことが行われていますよね。

それから「活動」です。クリーン活動、なんとか作戦、外来種を捕まえちゃおうとか、すごくおもしろいものがありますよね。「トビハゼの日」もここに入るのかなと思います。

それから「湿地を体験する」シリーズ。なんとか体験、田植え体験、なんとか勉強会、なんとか料理会、田んぼ料理とかすごくおもしろそうなイベントがあります。

それから「調査」。外来種とか、いろいろな調査をしている。

それから「祭り」です。祭りには2種類あって、スタンプラリーみたいなものも祭りとしてカウントしました。干潟祭り、何とかで遊ぼう、ガタレンジャー、すごくおもしろいことをやっていますね。昔からあるお祭りと今つくったお祭りと、2種類ありました。

あと、「採集シリーズ」。外来種を捕まえたい。何々を採ろう。ワイズユースですよ。どうやってどんなふうに採ろうか？

あとは、建物の中で何々を考えるシンポジウム、フォーラム。



このような活動をされていますが、それを3つに分けて、これが種類だと思います。これらの情報を今回 SUPER 脳嵐をする前に、メンバーで共有します。今回は頼りにしているこの2人にやってもらいました。この2人と私とで出したアイデアを紹介していきます。これだけの数が出ましたけれども、これらをグルーピングして、さらに深めていって、アイデアを出していきます。大丈夫ですか？ それでは行きますよ。

「湿地を生かした地域づくりを活性化させる 20 のアイデア」

「湿地を生かした地域づくりを活性化させる 20 のアイデア」。脳みそを柔らかくして挑んでください。できれば見たときに笑っていただきたい。では行きますよ。

一発目、「SDGs シッチ」。SDGs と湿地を組み合わせました。これは割とまともな方です。SDGs のこの番号に地域の活動を当てはめて、広報の物差しにしていこうというアイデアです。これは私も簡単に説明解説できるスタンダードなアイデアです。この先は解説不可能になっていきますので、ご覚悟ください。行きますよ。

「湿地寿司」。どうですか？ もうやってらっしゃる方いらっしゃいますか？ 皆様の脳みそに浸透する時間を取りますので、ちょっとゆっくり行きますけれども、今、思いつきました？ ぜひ言いたいという人は手を挙げてください。「湿地寿司と言うなら湿地なんかだよ」「寿司なんかだよ」とか。そういうふう to 発想してください。

皆さんは今、私とブレインストーミングしている状態です。書いていますか？ 自分のアイデア、パッと出たアイデアには特徴がありまして、3 秒後に忘れます。だから、必ず書き留める。後でわかるように書き留めるのがポイントです。後でどんどんすごくなっていきます。

「湿地で保湿」。湿地は水があって、豊かで潤いみたいなものだよ、というところから湿地で保湿というアイデアに至りました。こうすると女性向けの何かができるのではないかな。この潤いシリーズは何個か出てきます。



先に行きます。「湿地にズゴック」。ズゴックって知っていますか？ ガンダムの水陸両用のザクです。シェア専用、水の中に行けるものです。お台場に続いて、山下埠頭に今度ガンダムが建ちますよね。じゃあ、湿地にズゴックですよ、という感じです。

こんな感じでどんどん進んでいきます。呆れていませんか？ ついてきて下さい。これはブレインストーミングだと思って下さい。ズゴックを受けて、「僕なら何々」「私なら何々」と書いて下さい。行きますよ。

「湿地アニメフェスティバル」。海のアニメとかいろいろありますよね。あれを集めて著作

権を何とかクリアして、湿地アニメフェスティバル。どうでしょうか？時々笑っていただけると助かります。口角を挙げていただいて。

次、行きますよ。「市長が湿地に住む」。これどうですか？「もう湿地に住んでます。ラムサールしてますから」と市長自らやっていただく。市長が湿地に住むシリーズ。そのくらい市として湿地を大切にしている、センターにおいて考えているということ表現したアイデアです。

さらに、「市役所を湿地に建てる」。これ、どうですかね。この漫画イラストだと市役所から滝がガンガン出てますが（笑）。これは実際には難しいですが、こういったことあえて考えて脳の枠を外していくわけです。ラムサールで「沼、守っています」「川、守っています」「そこに皆、来てほしいんです」。だったら来る理由をそこに付けるという発想です。そこに住民票を取りに行かなければならない、という発想から生まれています。どうでしょう？さらに新しいアイデアを思いついた方いらっしゃいますか？恥ずかしいと思わずに。はい。どうぞ、なんでしょう？



法政大学 笹川孝一 市役所を湿地に建てるのではなくて、市役所に湿地をつくる。

菅山 あっ、いいですね！ここ、みんな「いいね」しましょう！それいいですね。市役所の中に湿地をつくっちゃう。それいいですね。ジオラマで作ってもいいし、映像で作ってもいいし、VRで作ってもいいし、とってもいいですね！

そうしたら小学校にも湿地をつくっちゃう。校庭の一部につくればいいですね。それを世話しているうちに何かいいことあるかも知れないですね。ジオラマが本当だと小学生が思っていたら、本当の湿地にいったら、「なんだ、すごいのあるじゃん、こっち本物だぜ」みたいなことが起こるかもしれません。素晴らしい。ありがとうございます。

というふうに、ブレインストーミングします。では、勇気づけられて次に行きたいを思います。「湿地時間で働く」。潮の満ち引きに合わせて市役所で働く。これ、すごく新しいと思うのです。潮の満ち引きと人間のリズムは合っているという説ありますよね。それを今は無視して暮らしていますが、ちょっと何かに取り入れて、満潮の時間に集合をかける、干潮の時間に退庁するとか、あると思います。

では、行きますよ。バカバカしい、私も思いますよ。できるわけがないと。でも、そこを、脳の枠を、外すんです。外して、もしかしたらできるかもしれないと思う、いいかもしれないと思う。これがブレインストーミングの極意です。では次、行きます。

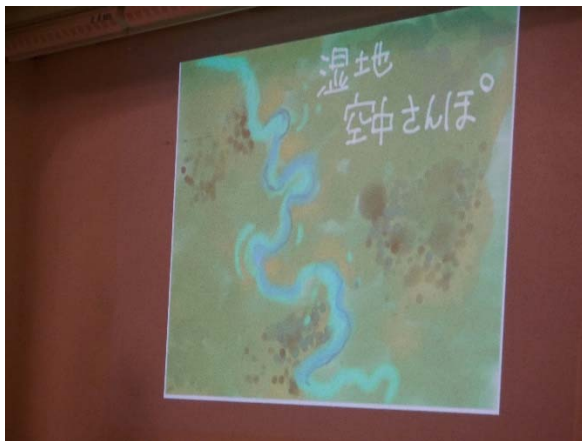
「湿地空中散歩」。これ、まともですね。これをどうやるかを考えたか。8Kの映像がありますよね。この間、ラグビーの試合を8Kのパブリックビューイングで見たのですが、3,000人

のホールの舞台一杯が 8K の 600 インチの画面だと思って下さい。そこに、普通にカメラ割りしていますから、舞台一杯のところにリーチ選手とその前の選手が 2 人映っている。あの大きさ、ズゴックぐらいの大きさでリーチ選手が映っているんですよ。それで何が見えるかという、リーチ選手がいて、その前にいる選手の太ももの産毛が見える。さらに、スクラムに入る瞬間に筋肉が躍動する、前から後ろに向かって力が入る様子が見える。というのが 8K です。例えば、その 8K をドーム映像にするとどうでしょう？ 壁、床、と 3 面に投影する。そういう空間に入った時、人間は体験と現実の区別がつかなくなると思います。

というようなことを受けて、疑似的に飛ぶ、VR で飛ぶ、実際に空間の中に入る、と様々な方法による散歩があります。

次、行きます。「**湿地婚**」。これはなぜ思いついたかという、釧路のタンチョウのことをずっと考えていて、求愛をするときに、観光客がタンチョウの写真を撮っていますよね。これは人間の結婚式と一緒にだね、そうだよねと。皆さん、「ねるとん」を覚えていますか？ 男女がいて、男性が告白したい女性のところに行って「〇〇さん、お願いします」と言う。例えば、〇〇さんの前で告白する時に、タンチョウの舞を踊るというイベントはどうでしょうか。そのようなツアーを、テレビ局と組んでやるといいのかなあと。今は、テレビである必要はないですよ。いろいろなメディア、ニコニコ動画さんと組んでやるとか、いろいろな方法があると思います。

続いて、「**子育て湿地**」。湿地で子育てしちゃう。どうですか？ 「子育て湿地」には展開の仕方がたくさんあると思います。様々な考え方があって、子育てに湿地を入れるとしたら逆ですよ？ というふうに考えていくと、いろいろ思いつくのではないのでしょうか。どんどん発想してってください。



次、行きますよ。「**湿地かくれんぼ**」。泥でぐちゃぐちゃになりながらかくれんぼをする。泥んこになってもいいから「泥んこかくれんぼ」とか。子どもたちが夢中になれるような、「今日はなんでこんなに楽しかったんだっけ？」となってしまうようなイベントを仕掛けてあげられたらというのが「湿地かくれんぼ」です。

続いて、「**湿地ドラマ**」。有名俳優さんたちが出ているようなドラマを「湿地ドラマ」に認定する。それで、フェスティバルみたいなものをやったり、延長線上に新しいドラマを作ってもらったりということもあると思います。

続いて、「**私、乾いて困っています**」。おもしろいのでイラスト化しましたが、「乾いて困っている人、いらっしゃ〜い」みたいな感じです。それで先ほどの「湿地エステ」のように展開さ

せていく。物理的に乾いている人を呼んでいく。それから「私、乾いています」の下に「**湿地パック**」。日本でこういう所、ないですかね？ パラオにはありますよね。泥を塗って天然パックをやっているところ。受けると思うんですけど、聞いたことないですね。



それから「心」シリーズです。「**乾いた心を湿地で癒す**」。乾いた心を癒すアイデア、何かないですか。それからイベント。空中でやる何か、セラピーとか。何かできそうな気がします。

続いて、「**湿地本願寺**」。本願寺さんに何も言わずに作っているの、これはここだけの話にしてください。乾いた夫婦が湿地に行くと、「お互い、この先も一緒に生きようね」と確かめ合えるものがないかと考えて、湿地にあるお寺はあんまりないかということから、こんなことが考えました。

それから「**湿地魂**」というか、当て字で「**ぬれ魂**」。自分の心が今、どれくらいマインドフルネスの状態か、潤っている状態かを競うコンテストです。「あなたの心、どうなっていますか？」を題材として、何かできないかなあというのがこれです。

これはもうわからないです。「**第三の湿地**」。おもしろいのでイラスト化してみましたが、「第三の湿地」とはなんですかね？ 良い湿地かもしれないし、一と二を合わせて三。「第三の湿地」という言葉にインパクトがあるじゃないですか。言葉のインパクトを利用して何か。

そして「**湿地で承認欲求**」シリーズ。これ、おもしろくてイラスト化してみました。「オレの湿地」って力がありませんか？「私の中の湿地」。私はこれが一番好きです。「うちのお父さんの湿地」。お父さんのだからね、ってだから何だってわけじゃないですけど、これ全体で「湿地で承認欲求」。

これは、湿地の身近感を合わせて何かできないかなと考えたものです。これ、キーですね。最初の扉です。こういうところから始めると展開していったります。

そろそろ終わりです。おもしろい駄洒落も考えつきました。「**湿地まったぜ！**」。何にも使えないと思いますけど。あまりにもおもしろくて何度も思い出して笑うので書いてみました。

最後の1枚です。さっきの「それ、SDGs」と同じで、「**それってラムサール**」。こういったものを。たとえば今日のこの会の参加者からいい始めて、認証し合っていくと、未来の日々の会話で「それってラムサール」と言う機会が増えていくだけで、だいぶ変わるのではないか、という提案です。

20 が終わりました。昨日の交流会の最後のお餅つき、とっても良かったです。私は小さい時からお餅つきを毎年やっているので、手返しもできます。とっても懐かしくて、お餅つきしな

がら、皆様をお会いしてもっとお役に立つことをお伝えできないかなと思って、昨日の夜、9時に帰ってから、あと5枚つくりました。

私の知識の中で皆様のお役に立つことがあるのではないかな。例えば、通常仕事で使っていることですが、こんなことがあります。

情報のうけとり

誰が何から情報をもらいますかということをまとめました。これは昨日作ったのでデータが取れていない、大抵的なものですが、シニアの皆様はテレビなどいわゆるマスコミから大部分の情報をもらって、あと紙媒体、新聞とか雑誌もよく読んでおられます。それから口コミ。これ、大きいですよ。こういったことから情報を受け取ります。

若者は9割がSNS、Twitter、Instagram、TikTokなどで、口コミがややあるでしょうか。口コミは本当に限られた人たちです。Twitter上では、彼らは友達か友達でないかわからない人たちの情報を集めて使っています。FacebookもSNSですが、こちらは中年、50代くらいしか使っていません。シニアはテレビ、マスコミ、紙媒体、口コミという感じです。

これをなぜ出したかというと、情報が届いて欲しい人が使っている媒体でないと、届かないのです。すごく良いものを作っても、来てほしいと思う人にどうやって届けるか。その人たちに届く媒体を使わないと、作っても独りよがりで終わってしまう。

私たちも、番組を誰に見てもらいたいかな、考えます。例えば、ストッキング屋さんは開発するときに、女子大を出た23歳のOLが週に何回履いて、最後はどう捨てるか、というところまで考えます。

おもちゃ屋さんも考えます。3歳の子がおじいちゃんにクリスマスに買ってもらって、半年使ってしばらく使わないのだけど、また1年後に使い始めて、3年後に捨てるみたいなのところまで考えるのです。何をどこまで、誰に来てほしいのか、ここまで、さらにその先までしつこく、隣の何とかちゃんに来て欲しいというところまで考えると、すごく良くなります。

腰の軽さ（来てくれそう度）

それから、腰の軽さ（来てくれそう度）を図にするとこんな感じです。シニアはお金たっぷり、時間たっぷりですから、ゆらゆらしていて、ちょっと押すと来てくれます。若者は時間がたっぷりでお金がありませんが、ここらに強く作用できると、この人達、来ます。

一番難しいのは、お金そこそこで時間がない中高年です。中高年といっても30代から50代。乱暴にまとめていますけれども、たくさん呼びたいのはこちらだけれど、本当にラムサールのことを伝えたい、未来を託したいのはこちらの若い層ですね。で、この人たちにどうやって届けてどうやってやるかを考えていくのが大切かと思います。

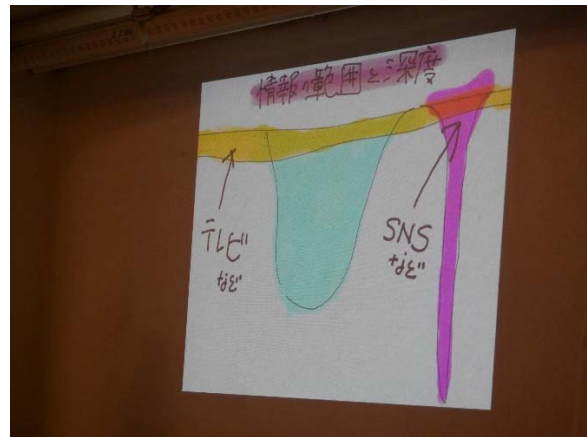
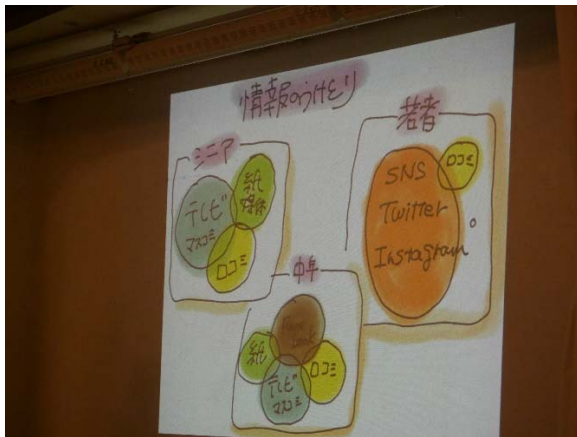
情報の範囲と深度

さらに、情報の範囲と深度があります。テレビやマスコミは広く渡るのですが、ニュースで1回出ました、1分半出ました、それだけです。きっかけに過ぎないのです。マスコミの情報が心を揺らすまでになるには、ちょっと難しい。

SNSは深〜く刺さります。がつつり捉えます。「行かなきゃいけない」という気持ちに深く刺さるのはSNSが強いです。もともとそれが好きで見ているのだから。ラムサールがすごく

好きな人がラムサールの情報を見ていて、ラムサールで何かやるといったら来ますよね。という積み重ねが深い情報にはあります。そのほかの情報はだいたいこんな感じです。テレビ、SNSを複数で使うことが、極めるポイントです。

人は「1」では動かないのです。「テレビ、見ました」「雑誌で見ました」だけでは動かないのです。「車内広告で見ました」「ポスターで見ました」「市の広報で見ました」「隣のおばさんが言っていました」と、複数の情報を受け取ることがポイントです。いっぺんに一杯届ける。何回も心を揺らす。テレビで見たものが雑誌にも出ている。雑誌で見たものがテレビや広告にも出ている。隣のおばさんも。「じゃあ行こうかしら」となります。複数に何回も揺らすのがポイントです。



トラップスケジュール

今言ったことをどうやるかというのが、トラップスケジュールです。私は映画を4本作っていて、1本だけ当たりました。その時は、主人公をテレビに出して、婦人雑誌に一杯出しました。さらに他にもテレビのいろいろな所で、関連番組の再放送をしたりしました。このように様々な媒体を複数で仕掛けるのです。これが、仕掛ける Base の方法です。定期的に市の広告に出すとか。その先に、ここで弾けるように複数の路線を一緒に走らせるのです。そうすると、さっきのこれですね。なんで揺らされちゃうのと。

浅いもの、中くらいのもの、深いものを複数で使うのです。誰に対してかということ、来て欲しい人が何を見ているかということ複合して考えていって、弾けさせます。

しかし、、、ここまでやっても弾けないものは弾けない。弾けるものは弾ける。その先の法則は運としか言いようがないのですが(笑)。というようにして、PR というものは作ってまいります。以上です。(拍手)

後5分ほどあるそうなので、何かご質問があれば、私がお答えできることでしたら。このような話でお役に立てたかどうか、非常に不安ですが。質問があればどうぞ。

朝岡 はい、どうもありがとうございました。せっかくの機会ですので、菅山さんがおっしゃったように、ここはいかがなものかというクレームではないですか。最初は市長さんたち一所懸命に写真を撮ったりしていたのですが、20 アイデアの後半になると、だんだんあきれて写真も撮らなくなる。それくらい受けたかなと思っております。聞きたいというのがあれば、ご質問をいただこうと思うのですが、いかがでしょうか？ どなたでも結構です。

近江八幡市市長 小西 理 近江八幡市でございます。プロジェクションマッピングは水面とか山にできる可能性はありますか。

菅山 大変良い質問で、山って緑ですよ。緑色は不思議な色で、全ての色を吸収するので緑色のものに映像を映すことは今の技術ではできないのです。この間のラグビーの時も、芝生の上にマッピングをしましたが、白い布を事前に引いていましたよね。

水面そのものは夜にやります。暗いので、黒いものもなかなか難しいのですが、1つ方法があります。ウォータースクリーンといって、噴水の水を扇状に出すのです。霧を出す装置を水中に入れるような仕掛けです。そこから扇状に 10m 四方ぐらいに水の幕ができて、光が反射すれば映像が映るので、空中映像を映すことができます。

池の上に四神が浮かび上がってこっちに走ってくると、子どもたちも私もドキドキしました。南湖の時にやったのは、ちょっと近いかもしれません。ウォータースクリーンを出して、その周りに松林があるのですが、松林の葉っぱには映らないけれども幹には映るんですよ。そこに縦横無尽にプロジェクターを重ねると、前の池の上のところに映像が映って、さらに自分の周りにもぐるぐる映像が出て、大変、体験感が強い。場所を見せていただければ、何らかの演出方法を思いつくと思います。

小西 ありがとうございます。

朝岡 もうひと方ぐらいいかがでしょうか？

笹川 法政大学の笹川ですが、「湿地の空中散歩」に関連して質問です。湿地の河童大会のようなものはできないかな、と思いました。新潟市の福島潟で、河童の物語の本もできていて、子どもと河童が一緒に水の中で遊ぶようなものが、マッピングを使ってできたらいいなと思いました。「ラムサールだから人は泳いだらいけないのではないか」ということは全くないのですが、そういうイメージも払拭されていません。そこで、「空中散歩」の続き、『千と千尋の神隠し』で千が竜のハクの背中に乗って空を飛び水の中を進みたい映像が出せたら、そして、そこで泳ぐことが体感できたらすごいと思いました。どうでしょうか？



菅山 例えば、体感ということだと、おもしろしちやっみたいになる装置があるのをご存じですか？ 脳と体感をつけたもので学生が考えた物ですが、おもしろしてじわじわとなるのを体感できる機械があります。それと同じような物を使って、泳ぐことを体感できるような装置を身体につけて映像の中に入ることになると、たぶん同じようなものができるのでは。今はできていないですよ。たぶん1年後ぐらいにできる。それがシンギュラリティで、今できないと言っていたら、そのうちにできるのです。

思いついて、様々な技術を組み合わせたらできるので、たぶんできると思います。河童のようなアイテムがあるのはすごくて、河童ベースでブレインストーミングをして、弾けさせてみ

る。河童がいること自体がすごい。

うちの娘が幼稚園の時に、プール開きに河童が来るといって、おばさんの先生がやるんですよ。全身緑色で一つも人間のところがない河童が来て、皆にキュウリを配るんです。うちの娘は、10年ぐらい河童を信じていました。大人が誠意を持って本気で仕掛けることの先に、未来が乗っているのだと思うので、アイテムと疑似体験、VRと体感装置を使うと反応がいい。

シューティングゲームでは、向こうから映像上にゾンビが来るんですけども、シューティングマシーンを持たされて、向こうからも攻撃してくるんです。スーツを着ているのですが、撃たれるとウットとなる、コツンとなる。そういう装置は普通に開発されているので、たぶん泳げる装置もできるのではないかと思います。答えになっていますか？

笹川 「ラムサールだから人が入ってはいけない」とは条約のどこを見ても書いていない、締約国会議の文書にも書いていない、むしろ、保全と両立するように大いに活用するようにということは書いてある。それにも関わらず「ラムサールだから入ってはいけない」と堅く信じている人も少なくない。そういう「思い込み」は、このマッピングを使って、どのように外したらいいのでしょうか。

菅山 一番いいのは、やって見せることだと思います。ギリギリの「ここまで合法ですよ」というショートVTRを作ってYouTubeに上げられたらどうでしょうか。市の職員がそれを上げて、ここまでやれますよと。そのやり方をおもしろく演出するのです。YouTubeの映像は最初の8秒が勝負です。8秒おもしろくて、全体で1分までぐらいの映像を作ると、弾けやすい。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

朝岡 はい、どうもありがとうございました。これからどんどん弾けていくところだったので、時間もありませんので、菅山さんにはこれで終わりにしたいと思います。菅山さん、どうもありがとうございました。菅山さんはしばらく会場にいますので、いろいろなときにつかまえて、質問していただければと思います。

それでは、基調講演の2番目といたしまして、会長市の大崎市の伊藤市長から「大崎市の湿地を生かした地域づくり」ということで、ご講演をお願いしたいと思います。それでは伊藤市長、よろしくお願いいたします。

2) 大崎市の湿地を生かした地域づくり」

大崎市長 伊藤康志



おはようございます。それでは菅山さんの後を受けまして、今日の 2 番バッターでお話しをさせていただきます。私に与えられたテーマは「大崎市の湿地を生かした地域づくり」です。昨日は、皆様方にマガンのねぐら入りを見ていただきました。こちらは朝の飛びたちの写真でございます。次の機会にぜひ見ていただきたいと思います。ねぐら入りも感動的ですが、朝の飛び立ちもさらに躍動的でございます。

朝は 10 万羽から 15 万羽くらいの渡り鳥のガンが、飛び立ちます。夕方のねぐら入りは、数千羽あるいは数百羽単位で戻ってきます。こちらは朝の飛び立ち、数万羽単位で一斉に飛び立っている姿で、大変躍動的、感動的であります。ぜひ、次の機会にご覧いただければと思います。

こちらのスライドはラムサール条約に登録された生態系の状況でございます。その下は後程お話ししますが、大崎耕土が世界農業遺産に認定された、認証式の写真とランドスケープ大崎耕土の水田に浮かぶ小さな森、居久根の状況です。これらを次回以降、じっくりとご案内申し上げたいと思います。

大崎市の概要

初めておいでになった方、次においでになる方のために大崎を改めてご紹介いたします。大崎市は 13 年前に誕生した合併市で、旧古川市と周辺の 7 つの町が合併しました。人口約 13 万人、約 8 万 km^2 、東西に約 80 km。日本列島を横にしたような、イタリア半島のような大崎耕土が誕生いたしました。大変多彩で恵まれた資源、宝がありますので、合併した機会に、有意な資源素材を連携し、宝磨きをしていこう、宝の国大崎を目指していくということで、市民共同でまちづくりを始めています。

西の端は山形県、秋田県境に接し、東は松島湾の手前まで、海がない以外は何でもございます。西の方は丘陵地帯で、奥羽山脈のふもとまでですが、温泉番付で東の横綱認定された鳴子温泉を擁しています。

2 つのラムサール条約登録湿地

この全体の平場のところが大崎耕土になります。後程ご紹介いたしますが、世界かんがい施設遺産にも認定されたところでございます。昨日訪れて頂いた燕栗沼と化女沼という 2 つのラムサール条約登録湿地があるわけですが、合併をした機会に、このラムサールイズムを大崎全体に広げようということで、その一環として世界農業遺産に認定をされました。

大崎耕土は、もともと野谷地といわれる大変な湿地地帯でした。ここのイベントホール場所は、昔の地名で言いますと蓑口沼です。そういう沼だとか谷地という地名が、たくさん残っ

ています。先ほど菅山さんのお父さんのふるさとが大崎だと言われましたが、菅山さんのお父さんの生誕地も谷地中という所ですね。そういう谷津や沼という地形があるように、この地域は野谷地でした。

ここを治めた伊達政宗公は、河川改修と水田開発で徳川幕府から 62 万石拝領したのですが、実高 100 万石、150 万石とも言われています。ここで出来た豊富なお米は江戸に運ばれて、多い時には江戸市民の 3 分の 1 は大崎耕土をはじめとする本国米だと言われたぐらい、豊穡の大地に生まれ変わった所です。大崎を横断しているのが、鳴瀬川、江合川という 2 つの母なる川で、それらの川に抱かれて大崎耕土があるという状況でございます。

野谷地や湿地が大崎一円にあった名残が、今回ラムサール条約登録湿地になりました蕪栗沼、化女沼です。その他に潜穴や堰、たくさんの遊水地といった水に関わる場所がたくさんあります。代表的な蕪栗沼と化女沼がラムサール条約登録湿地に認定をされました。

2 つの登録湿地は、どちらもラムサール条約の取組のなかで賢明な利用を目指しています。蕪栗沼の場合は、周辺の田んぼと一緒に鳥や生き物と人が共生する持続可能な農業を展開していることが特徴です。沼と周辺の田んぼが、一体的に渡り鳥と共生する農業を展開しております。

化女沼は、高速道路のインターチェンジにアクセスされている国道 4 号線のすぐ近くで、アクセスに恵まれています。宮城県北にあるラムサール条約湿地も含めたラムサールトライアングルのゲートウェイ的な役割、ツーリズムの起点としての役割を果たしています。

蕪栗沼・周辺水田のふゆみずたんぼ

蕪栗沼は、沼そのものの面積と周辺の田んぼを一体的にラムサール条約に登録いたしました。この取組は世界で初めての登録になりました。沼だけではなく、周辺の田んぼと渡り鳥と水田農業が一緒になって活用していこうという取り組みです。

これは野焼きの状況ですが、野焼きや陸地化防止、水路の管理をしながら、湿地の保全に努めています。これは NPO や企業、地域の方々のご協力をいただいております。

そして、ワイズユースの取組として、この湿地にたくさんの渡り鳥が来るようになりました。一時期は害鳥扱いされ、地域とトラブルもありましたが、最終的には渡り鳥と共生する地域づくりを始めました。蕪栗沼だけに渡り鳥が一極集中してしまい、分散しようと、周辺の田んぼに水を張り、人工的な沼にしました。まさに「ふゆみずたんぼ」です。「鶴の恩返し」ではなく「マガンの恩返し」で、渡り鳥が越冬して餌を食べるだけではなく、雑草や害虫も食べて、濃厚な糞のお土産を置いていくという循環の中で作ったお米が、「ふゆみずたんぼ米」で、健康に大変良いという付加価値が高まりました。

また、大崎には 7 つの蔵元があり、地元の蔵元が「ふゆみずたんぼ米」を原料としたお酒を販売するなど、6 次産業化が進んでいるところです。

化女沼のエリアゾーニング

化女沼は、高速道路や四号線と隣接していてアクセスに恵まれていると同時に、生態系に恵まれています。もともとはこの地域の灌漑用の水源でしたが、ダム湖として、めずらしい認定を受けました。

化女沼は里山を再生する取組とツーリズムの拠点であり、自由広場、遊びの広場としてのゾ

ーニングをして、2つの活動を展開しています。スマートインターから多くの方を誘客し、近くにあるダム管理事務所が蕪栗沼、伊豆沼、志津川へのトライアングルのゲートウェイの役割を果たしています。

蕪栗沼・周辺水田及び化女沼の交流と学習

両方の取組に共通していることは、生き物調査や生態系調査を子どもたちや消費者の方々と一緒に行っていることで、保全活動や生き物調査を行っています。子どもたちを中心に、生き物クラブなど、熱心に活動していただいています。

世界農業遺産とラムサール登録湿地

大崎一円がもともと野谷地と言われるものを水田にし、水田は湿地の一つという考え方の中で、持続可能な循環型システムをぜひ大崎全体に広げようと、一昨年、国際連合食糧農業機関（FAO）より世界農業遺産に認定されました。東北・北海道としては初めてであり、この広大な水田稲作地帯が認定されたのは世界で初めてということです。これは、平成29年にイタリアのローマで認証式に臨んだ様子でございます。

世界農業遺産の認定基準があるわけですが、ラムサール条約と共通する「農業生物多様性」の問題、有機栽培米や環境保全米の生産、ふゆみずたんぼの農法などに取り組んでいます。また、地域の伝統的なシステムや巧みな水管理のシステム等々が、世界農業遺産の認定基準、まさにラムサール登録湿地として取り組んできた活動と整合性があるので、立体的にすすめていこうと。

持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的な水管理システム

ラムサール登録湿地に認定されたことを機械に、この地域で培われてきた農耕文化や食文化、ランドスケープなどのツーリズム、そして沼だけでなく水田の中にある屋敷林、居久根が、生態系のオアシスになっている取組などを一体的に広げていこう、皆で誇りにしながら進めていこうという取組を行っております。

その取組を具体的に実践しているのがアクションプランで、1つには、たくさんの恵まれた農業遺産、ツーリズムを通して交流人口の拡大をはかっていくことです。そして、この認定を機会に持続可能な農業の推進をはかっていこうと。このことを誇りに思い、次の時代に伝えていくための人材育成や、長年培われてきた知恵の継承をアクションプランに位置づけました。

世界農業遺産の取組状況

すでに取り組んでいるものをいくつか紹介します。大崎耕土の取組のマップや映像を作成しています。また、大崎耕土の学習機会・情報発信拠点として、今年の7月にオープンした「道の駅おおさき」は、大崎市が誕生してからの最初の道の駅ということで、世界農業遺産の発信地になります。

その取り組みの1つとして、お米が第1号で、米の認証制度、子どもたちの副読本の作成、人材育成に取り組んでいます。日本のお米はほとんどがコシヒカリ系ですが、震災の後、この地域が持っている潜在的な力、水田の力、お米の力を震災復興のエネルギーにしようと、この地域で誕生したササニシキ系の「ささ結」を復興の象徴として、復興や地域の取組として発展

してまいりました。

これは、生産者だけではなく、消費者や蔵元や流通業者、研究機関の方々との取組が「ディスカバー 農山漁村の宝」で認定をいただき、認証式の様子です。昨晚、このお酒を飲んでいただきましたし、お米も食べていただきました。

ブランドコンソーシアムの取組

ラムサール条約で湿地登録された 2 つの湿地の取組を世界農業遺産の認定と併せて融合して深掘りして発展させていこうと、今、取り組んでおります。大崎地域の活性化の形として連携融合して、湿地生態系、渡り鳥や生物多様性と共生する価値ある農業、米づくりのブランド力を一層高めていこう、認証制度などをもとに発信をしていこうという取組でございます。

もう一つは、湿地を生かした大崎耕土の取組を、ぜひ国内外、特にインバウンドを含めて海外からもたくさんの方々においでいただき、大崎耕土での数々の体験を進めていこうという取組です。皆様方と情報共有しながら、さらに進めてまいりたいと思います。ちょうど与えられた時間になりましたので、私からの報告にさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

4. ポスター交流会（政策実践交流）

「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」

朝岡 伊藤市長、ありがとうございました。それではこれから約 30 分間、ポスター交流会、ポスター・セッションを行いたいと思います。会場におられる担当者の方は、ポスターの前にお立ちいただくようお願いいたします。これから紙を配りますが、1 つだけ変更があります。3 クールやる予定だったのですが、時間が押していますので、2 クールにしたいと思います。他のところに行っていていただいてもいいのですが、最低 2 つは聞いていただくことにしたいと思います。8 分経ったらベルを鳴らしますので、説明の途中でも止めて、他のところに行くようにしてください。よろしくお願いします。



朝岡 後半の報告をいただきたいと思います。後半は、「湿地を生かした地域づくりについてのご紹介」ということで、5つの自治体にそれぞれ10分間ご説明いただきます。大変申し訳ありませんが、8分になったら1鈴、10分になったら2鈴、それでも止めない場合は打ち続けますので、どうか時間厳守でご協力いただきたいと思います。最初に、近江八幡市の小西市長、よろしくお願いいたします。

5. 湿地を生かした地域づくりについてのご紹介

1) 近江八幡市「琵琶湖の内湖『西の湖』における取組について」

近江八幡市長 小西 理

近江八幡市の概要

こんにちは。滋賀県近江八幡市から来ました小西でございます。実は大崎市とも若干関係がありまして、近江八幡市の南には中山道、旧東山道が通っています。近くには伊達政宗公お手植えの梅があり、この道はここまで続いている、これもご縁だと思って来させていただきました。

近江八幡市は、近畿地方の滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東岸に位置しています。人口82,000人。10年前に旧近江八幡市と旧安土町が合併して、新しく近江八幡市になりました。海無し県ですが琵琶湖の中に日本一の有人島を抱えていて、右の方、沖ノ島、今は沖島と言っています。



ラムサール条約登録湿地「琵琶湖」

琵琶湖は65,984ha、690km²、登録湿地面積として65,000haという非常に大きな湿地を抱えています。上の方は飛来する鳥たち、下の方は和船です。近江八幡の水郷ということで、和船の水郷めぐりをやっております。川は今、代掻きの水で濁っていて、非常に課題ばかり多く、今日お話しするような内容はないのかもしれませんが、皆さんの参考になるようなことをお話しできたらと思います。

歴史的にも非常にたくさんの資産を持っております。織田信長の安土城の跡、豊臣秀次の八幡山城趾と、数多くの城と文化財を持っています。その中で琵琶湖は、ただ1つ出口があります。中には117本の川があり、多くの川が天井川で、湿地の保全と水害防止と表裏一体となった形で行っています。一方、京阪神約1,400万人の飲料水を提供していて、周りの環境に対する意識は結構高いものがあるかと思います。

琵琶湖の自然・水鳥

ここから本題ですが、今、数多くの水鳥たちがやってきます。ただ、あまりにも生活に密着

していて、住民に特異感がなく、ここをがっちり守らなければいけないという意識がまだまだ低いです。日常生活の中に溶け込んでしまっている、それが偽らざる実態かと思います。

琵琶湖の内湖「西の湖」

琵琶湖の中には「西の湖」という内湖があります。琵琶湖の最大の内湖で、戦前には琵琶湖の東岸にはほとんど内湖がありました。これが食糧増産で埋め立てられ、唯一残ったのが西の湖です。西の湖も埋められそうになったのですが、当時の住民運動等で残すことになりました。近江八幡市の他の4つの内湖はすべて干拓されて埋められ、今は大きな農業地帯として農業生産をしています。

西の湖での交流・学習、ワイズユース

西の湖は、われわれの資産として活用されています。交流学习として、西の湖はいろいろなNPOとも活動していて、昨年、「西の湖自然学校」を開校しました。普通の学校と一緒に一斉募集をして、1年間を通じて学習してもらうものです。定員50人のところ定員オーバーで抽選になり、今後どうしようかと考えております。

毎年、「西の湖ヨシ灯り展」をやっています。もともと西の湖のヨシは、近江商人を育てたいぐさと並ぶ主要産物で、大きな宝でした。ところが日本人の生活が変わり、今、よしずはほとんど使われなくなりました。このヨシをどう守っていくのか、ヨシへの関心を高めてもらおうと、「西の湖ヨシ灯り展」をやっております。このヨシ灯り展はヨシを使ったデザインアートで、小学生の部と一般の部を合わせて、1,000点近い応募があります。

だんだん規模が大きくなり、最近では県外からも作品を出していただいたり、小学校の授業でも取り上げてもらったりしています。地元としても盛り上がりつつあり、ヨシに目を向けることに非常に大きな効果を果たしていると思っております。

一方、西の湖について、他にもさまざまな取組をやっています。食材として「ヨシうどん」をやっていますが、なかなかブレイクしていません。最近のうどんは讃岐うどんの食感が考えられ、ヨシうどんはちょっと柔らかいのです。名前を変えたらどうかと言っても、嫌だと言われています。

西の湖のヨシ群落（保全・再生）

ヨシについては、よしずが難しいので、今の形としては弁当箱等の新しいデザインの商品を開発できないかと、いろいろ取り組んでいるところです。

右は西の湖上の田んぼ、「権座」です。昨日の夕食会で、権座の米でつくったお酒を出させていただきました。江戸時代の徴税を免れるための隠し田で、外から見るとヨシ原にしか見えませんが、中には田んぼがあります。今は田舟でトラクターを運んで耕作しているところがありますが、この権座を再生して、子どもたちの環境学習等に利用しています。将来的には、観光にもいけるのではないかと考えています。

近江八幡市では、2つの主体が中心となって活動しています。1つは「まちづくり協議会」で、公民館を無くしてコミュニティーセンターという形になりました。したがって、地域の環境保全等の主体となるのはまちづくり協議会で、自主的に活動していただいています。先ほどのヨシ灯り展については、安土町のまちづくり協議会が主体となって運営しています。

また、いろいろな NPO 等と活動していますが、当市の特徴としては「おやじ連」というものがございいます。近江八幡市は昭和 30 年代の高度成長期に、大企業が立地し始めて、その頃移住されてきた方々が 60 歳以上を迎えています。この方々の生きがい、地域に根のない方々をどう地域に溶けこんでいただくかということで、「男の料理教室」をやっております。この方たちが自主的にヨシの保全や環境保全、「景観隊」など、いろいろな自然保護の取り組みに力を発揮しています。企業でいろいろなノウハウを持っている方が多く、大変大きな力を発揮していただいています。

重要文化的景観「近江八幡の水郷」

この写真は豊臣秀次が作り上げた八幡堀の風景です。いろいろな船を通して情報を収集していった近江商人の発祥の源、商業の発祥は情報からということで、情報源として発展したところでございます。

隣は市内のヨシ原を含む田んぼの風景、隣はヨシを乾かしているところです。ヨシの話は話すとキリがないので今日は詳しい話はしませんが、今はこういう形で、それぞれの景観を守りながら進めているところでございます。端折りまして恐縮でございますが、今後ともよろしく願いをいたします。ありがとうございました。(拍手)

朝岡 はい小西市長、どうもありがとうございました。それでは続きまして習志野市の宮本市長にご発表をお願いしたいと思います。ご準備ができましたらよろしくお願いいたします。

2) 習志野市『コラボレーション』による水辺環境の保全」

習志野市長 宮本泰介



本日は『コラボレーション』による水辺環境の保全」と題しまして、谷津干潟で行われている環境保全活動についてご紹介いたします。よろしくお願いいたします。習志野市の紹介と、「谷津干潟をキレイにしよう!」という取り組みについてお話をいたします。

習志野市の紹介

まず、習志野市の紹介でございます。ここに描かれているのは、ご当地キャラ「ナラシド♪」です。音楽の町ということで、「ソラシド」と「ならしの」をくっつけて「ナラシド♪」としました。市制施行日が昭和 29(1954)年 8 月 1 日ですので、誕生日は 8 月 1 日、谷津干潟出身ということになっております。

習志野市は千葉県北西部の東京湾に面していて、東京の都心から約 30 km 圏内、最短で 28 分で行ける土地柄です。近江八幡市長の小西市長さんの発表がありましたが、小西市長も住ん

でいたことがあるそうです。ラムサール・ネットワーク日本の金井代表も住んでいただいております。人口は約 17 万人、県内 54 市町村で 4 番目に面積が小さい市です。

地図で示されている絵の成田空港より小さな感じですが（笑）、実際は東西 9 km、南北 6 km、54 km²の四角の中にタスキのように斜めに帯びているような状態で、21 km²という狭さです。一方で人口密度は約 8,000 人/km²と千葉県で 3 番目に高いです。

谷津干潟、谷津バラ園、そして「音楽のまち ならしの」として、市内の小中学校や市立習志野高校の吹奏楽部が全国の音楽コンクールで優秀な成績を収めています。市立習志野高校は音楽だけではなく、野球部、サッカー部、バレーボール部など多くの運動部が活躍しております。

谷津干潟をキレイにしよう！

続いて本日の発表のメイン、「谷津干潟をキレイにしよう！」ということで、谷津干潟について紹介いたします。まず他にある干潟とは異なる点を申し上げます。

谷津干潟は、周囲をコンクリートの壁で囲われた、住宅地の中にある干潟である点です。面積は約 40ha で、登録湿地の中ではかなり小さく、成田空港の 1/27 の面積しかありません。この場所全域が昔は国有塩田だったこともあり、現在も国（環境省）が所管しております。つまり、外周が開発されて残った干潟で、同じように残った 2 本の水路で海につながっています。繰り返しになりますが、住宅とコンクリートの壁に囲まれているという非常にめずらしい干潟です。

高度成長期に干潟周辺の埋め立てが進み、市民からの保全運動が起きました。そして、埋め立ての対象から外れて、干潟としては初めて 1993 年にラムサール条約登録湿地に指定されました。人も含めて多くの生き物が集まる憩いの場であり、オーストラリアのブリスベン市との湿地交流も行っております。ブリスベン市にはブーンドル湿地があり、東京湾何個分という大きい湿地です。葛西海浜公園さんにも（私たちが湿地交流で訪問団の受け入れをするときには）ぜひ一緒になっていただければと思っております。市の施設である「谷津干潟自然観察センター」では、様々な取り組みを行っております。

課題 アオサの大量繁茂

近年、谷津干潟における大きな課題としてアオサの大量繁茂があります。アオサは海藻の一種ですが、焼きそばなどにかけるアオサ海苔とは違う種類です。アオサ海苔にもたくさん種類があります。ひどいときには、ゴルフ場のように一面緑になります。カモのエサにはなるけれど、量が多いと日を遮ってしまいますので、底生生物が生きられない。夏になると、腐食して大変な悪臭を放ち、地元住民の生活環境を脅かしています。

腐敗したアオサはピンク色になり、腐敗臭を放ちます。一昨年は赤潮の発生と重なって、特に悪臭がひどく、方策を考えました。翌年、環境省の皆様と連携して、2018 年 6 月 16 日に谷津干潟のアオサ除去活動を行いました。谷津干潟は鳥獣保護区なので普段は入れませんが、環境省の協力を得て、初の試みとして湿地に実際に立ち入り、潮の干満に合わせて活動しました。

その第二弾として、今年は「谷津干潟をキレイにしよう！」という名称にしました。より多くの人に干潟を楽しんでもらえるよう、対象者を小学 1 年生以上に拡大して、今年の

倍の約 600 人の参加を得て、2.6t のアオサ、漂着ごみ、貝殻などを回収しました。

当日の様子を見ていただくとわかりますが、まさに湿地の中に人々が住んでいるかのような状態です。これだけ多くの人が湿地の中に入って活動するのはそう無いケースで、あらゆる人が関わる事ができて、非常に良かったと思っています。

先ほどの菅山先生のたくさんのボードと合わせますと、まず、湿地パックをしている人、湿地で保湿している人（泥まみれの状態の人）がたくさんいました。そして子育て湿地、乾いている人を助けることができました。企業の方が社会貢献活動の一環で参加して干潟に触れることで、日頃のストレス発散にも貢献できたものと感じております。

真ん中に僕が写っていますが、「湿地でドラマ」をやりました。本当にたくさんの人に関わってもらったことで、悪臭を放っていた谷津干潟が、かなり良いイメージに変わりました。実際に干潟に入ってもらい、清掃活動のほか泥遊びや自然遊びといった様々な体験がいろいろなことに役立つと思いました。子どもたちが成長して、多様性社会の 1 つのヒントになればと思いますし、積極的なことができたのではないかと思います、来年も続けていきます。

もしかしたら、常識に捉われない湿地保全をやっているのではないかと、菅山さんの話を聞いて思いました。ありがとうございました。（拍手）

朝岡 宮本市長、どうもありがとうございました。それでは続きまして、小山市の大久保市長からご発表をお願い致します。

3) 小山市「渡良瀬遊水地の賢明な活用による地域活性化に向けた小山市の取組について」

小山市長 大久保寿夫

ただいまご紹介いただきました栃木県小山市市長の大久保と申します。まず、この図を見ていただきますと、渡良瀬遊水地から 131 km に富士山があり、秋から冬にかけては素晴らしい夕日を拝むことができます。まず小山市の DVD をご覧いただきたいと思います。

「……未来はここから変わり変わりはじめる。明治期に歌われた鉄道唱歌に栃木、茨城、群馬三県を結ぶ結節点として登場し古くから陸上交通の要衝だった小山。1982 年、新幹線の停車開始をはじめ、都心とつながる街として発展を続け、近年では警察署、消防庁舎の建設、新小山市市民病院の開院、そして市役所新庁舎の建設、中心地街の活性化を目的とした小山駅東西自由通路、さくら道の開通など、小山市は進化を続けています。その中でも注目を集めているのは小山市が進めている市街地整備事業。イトーヨーカドー、ヤ



マダ電機、白鷗大学本キャンパスなど、商業、文化施設は小山駅東口駅前に集積させ、北関東の拠点都市への変貌を遂げようとしています。また西口には駅直結の VAL やロブレが。

小山は大宮、宇都宮、東京を結ぶ交通の要衝。東京駅へは新幹線で 42 分、通勤やショッピングへと気軽に都心を使いこなせます。湘南新宿ラインで大宮駅直通 37 分、新宿駅直通 70 分、渋谷駅直通 76 分、宇都宮駅には直通 25 分と都心とつながるミッドターミナルとしてのフットワークを有する街。また市内各所への移動も小山市のコミュニティバス、おーバスの発着する小山駅東口バス停、小山駅西口バス停も便利です。

周辺の幹線道路沿いには車で気楽に利用できるおやまゆうえんハーヴェストウォークやイオンモール小山などの商業施設、市内中央部を流れる市のシンボルと言われる思川を見渡す高台に歴史の面影を残す城山公園、東口には中央図書館が隣接する城東公園、そして四季を彩る小山市原産の思川桜、夏の風物詩、小山の花火大会などの歴史と文化が育て上げた街をより魅力的なものにしています。」

渡良瀬遊水地「賢明な活用」3 本柱

本当は全部見ていただきたいのですが、時間が無くなってしまうので、小山市渡良瀬遊水地についてご説明いたします。

渡良瀬遊水地の賢明な活用は、地域における活性化、特に地場産業の農業を中心にした活性化と観光地化の取組でございます。小山市には世界に誇る 3 つの宝があります。リオデジャネイロ・オリンピックで金・銀・銅の 3 つのメダルを獲得した萩野公介選手、銅メダルを獲得した海老沼匡選手といった世界で活躍する「若者」。2010 年にユネスコ無形文化遺産に登録され、本日着させていただいています「本場結城紬」。そして 2012 年にラムサール条約に登録された「渡良瀬遊水地」です。

この渡良瀬遊水地の賢明な活用の 3 本柱として、第 1 にエコミュージアム化、第 2 に環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進、第 3 にコウノトリ・トキの野生復帰を推進しております。

エコミュージアム化

1 つ目のエコミュージアム化については、国土交通省の協力を得て、湿地の再生を行って、23.3ha の湿地を再生いたしました。市民や市外の方にも応援をいただき、外来種の除去作業を行っております。

環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進

2 つ目の「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」では、農家のご協力による「ふゆみずたんぼ・なつみずたんぼ等の拡大」を行っております。ホンモロコやナマズの養殖も行っていて、これによって人を呼び込みたいと考えております。

コウノトリ・トキの野生復帰

3 つ目の「コウノトリ・トキの野生復帰」については、第 1 の柱「エコミュージアム化」、第 2 の柱「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」ということで、コウノトリのエサとなる生き物の増殖を行っております。また、コウノトリの営巣環境の整備ということで、5 か

所の人工巣塔を設けました。渡良瀬遊水地内に初めてつくったのですが、コウノトリ「ひかる」君が昨年の2月17日に飛来し、定住しています。今年の8月には他の3羽のコウノトリもやって来ました。4羽のうち2羽がメスで、「ひかる」君は来年4歳になりますので、いよいよ関東初のひなの誕生が期待されています。こちらが「ひかる」君と「歌」ちゃんです。

また、市民の皆様にも普及啓発活動を進めております。第1回の小山市市民号につきましては、大崎市にお世話になりました。大変ありがとうございました。

また、人を呼び込もうと、「小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画」を作り、観光地化も推進しています。渡良瀬遊水地の周辺で毎月さまざまなイベントを行い、皆さんにご来訪いただきたくお願いしているところでございます。

先程、菅山先生から「湿地で祭り」がありましたけれども、私どもも「田んぼアート田植え」、また近江八幡様でヨシ灯りがありました。私たちが「ヨシ灯り」、渡良瀬遊水地で自転車競技「ツール・ド・おやま」を、3月には1,500haという関東最大の「ヨシ焼き」を行い、多くの皆様にご来訪いただいております。

これは左がコウノトリで右がサギです。このようにおもしろい写真も撮って、皆様にお目にかけてと思います。ご清聴、誠にありがとうございました。(拍手)

朝岡 大久保市長、どうもありがとうございます。それでは続きまして野木町の真瀬町長、ご準備お願いいたします。

4) 野木町「栃木県野木町の取組紹介」

野木町長 真瀬宏子



野木町は、小山市のすぐ南側、東京側に位置し、30.27 ㎢という小さな町でございます。遊水地関係の事業につきましては、小山市長様からおかたお話がありましたが、私たちも協力しながら、渡良瀬遊水地を囲む自治体として歩んでおります。

それでは野木町の取組を紹介させていただきます。映像に写っておりますのは、渡良瀬遊水地内野木町で右側は思川、左側は渡良瀬川が合流するところです。大変豊かな水をたたえた素敵な風景が見られ、市民、町民のサイクリングロードということで、いつも橋の上から眺めている所です。釣り人も多くいらっしゃいます。

野木町の西側に位置します 33.4 ㎢くらいの緑の部分が渡良瀬遊水地で、首都圏の水瓶となるハート池、それから、平地型ダムとして機能するところです。栃木市が 70 数%を擁していて、群馬県の板倉町、埼玉県に加須市、茨木県の古河市、そして小山市、野木町ということで、

4市2町4県にまたがる大きな遊水地でございます。

野木町煉瓦窯及びホフマン館事業

その一端に位置している野木町の主な取組事業は、野木町煉瓦窯関係でございます。かつて、明治21年頃から、遊水地内で煉瓦を焼くという事業がおこり、たびたび水が来て煉瓦が焼けない状態になってしまう状況でした。野木町は少し高台にあり、これは明治23年頃に建設されました煉瓦工場でございます。明治の殖産政策のため、遊水地の粘土と遊水地内の川砂をブレンドした煉瓦を、丸の内や東京近辺に出荷して、多い時は1日4,000ぐらい出荷する所で行っていました。

国指定の重要文化財となっておりますので、ホフマン館という展示場を設けて、渡良瀬遊水地について、訪問者の方たちに水生生物、植物、渡良瀬遊水地がここに出来た理由など、いつも待機しているボランティアの人たちが概略の説明をしております。体験教室もやっております。渡良瀬遊水地から確保しました粘土と川砂で、素焼きの煉瓦まではいかないのですが、ペンダントや自分で好きな作品をつくってもらっています。

「のぎ水辺の楽校」事業

また、渡良瀬遊水地に隣接したところ、ここは国で計画しました「のぎ水辺の楽校」の1つで、野木町が管理せよということで、外来種の除去活動などを行っています。ハンゲショウ、ワタラセツリフネソウという独自の種がそこで育っておりまして、「水辺の楽校応援倶楽部」という町民のボランティアグループの方たちが、自然体系を守って下さっております。

水辺の楽校では、年に1回、ホテルの鑑賞会を行っています。6月に2日に渡り、1晩1,000人ぐらいいらっしゃいまして、水辺の楽校でホテルの鑑賞など、いろいろなイベントを開催しております。

渡良瀬遊水地ボランティアガイド養成講座

野木町は後発ですので、ボランティアガイドを養成しようと、平成28年頃からボランティアの養成講座を開催しております。渡良瀬遊水地独特の植物の観察会、渡良瀬遊水地の中での釣り講座を行っています。8月、9月頃にツバメのねぐら入りをしますので、その頃に野鳥の観察会や水鳥などの観察会なども行っています。

小山市もヨシ焼きツアーを行っておりますが、野木町でもバスでツアーを組んで、来年はさらに火入れ式などに、市町民多く募集しようという国交省のお考えもあります。昔は、専門の人しか野焼きには関わらなかったのですが、体験型に変えていこうとしています。

豊かな遊水地の生態系に守られた野木町の野木神社には、毎年、猛禽類のフクロウが営巣します。オオタカなども確認されておりますので、遊水地の豊かな自然体系をこれからも町として守っていきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

朝岡 真瀬町長、どうもありがとうございました。それでは最後になりますが、浜頓別町の菅原町長、よろしくお願いいたします。

5) 浜頓別町「浜頓別町が目指すワイズユース」

浜頓別町長 菅原信男

浜頓別町について

はい、ご苦労様でございます。北の国からもっと北に位置する北海道、浜頓別町です。ラムサール条約の指定は平成元年、国内3番目で、今年は30周年を迎えております。

これは、コハクチョウのつがいだと思います。クッチャロ湖にはオオハクチョウ、まれにコブハクチョウも来ますが、ほとんどがコハクチョウです。場所はオホーツク海に面していて、人口が約3,600名、人口密度でいいますと、東京ドームに1人、牛は2頭、こういうイメージをしていただければと思います。山あり、海あり、湖ありと、自然豊かな町でございます。



町の基幹産業は酪農と漁業ですが、林業と観光も大事な産業の一つです。クッチャロ湖は町の中心市街地からほど近い1キロ弱の位置にあります。ホタテ漁場で豊かなオホーツク海にそそいでおります。

クッチャロ湖・ベニヤ原生花園・ウソタンナイ地区

クッチャロ湖は野鳥の宝庫で、春と秋にはシベリアと日本の渡りの中継地として数千羽のコハクチョウが羽を休ませます。毎年、ここで400羽ほどのハクチョウが冬を越して、10月から翌年の5月の連休明けまで、6か月間ほどハクチョウが観察できるのも、ここの特徴であります。近年は毎年タンチョウのつがい確認されており、タンチョウとコウノトリというツーショット、大変めずらしい写真でございます。

ここはベニヤ原生花園です。6月から9月にかけて、スズラン、クロユリ、エゾスカシユリなど、100種類以上の草花が次々と咲き競います。日本ではこの道北にしか繁殖していないといわれているツメナガセキレイやエゾリス、コモチカナヘビといった野生動物に出会うこともできます。

これは市街地から7、8km内陸部に位置するウソタンナイ地区です。夏場は砂金掘り体験ができる公園として賑わいます。この川を遡上するサケを狙って、11月から翌年1月にかけて、天然記念物のオオワシ、オジロワシが大挙してやってきます。右側の大きな写真には、1本の木に数十羽のオオワシとオジロワシが止まっていて、私たちは「ワシのなる木」と呼んでいます。12月のピーク時には400～500羽のオジロワシとオオワシが観察でき、ここならではのことで、野鳥ファンを魅了します。

「ワイズユース」への取組

この豊かな自然は、私たちの生活と非常に近い存在にあります。ですから将来にわたり保全

し、共生していくために、ワイズユースの取組を行っております。1つは、「浜頓別町ジュニアガイドアカデミー」の活動です。地元の小学生が野鳥や草花を観察するだけでなく、地域の産業も学び、クッチャロ湖の水質あるいは酪農等々、産業との関係についても学び、長年、北海道酪農学園大学と共同でいろいろな活動を展開しています。

また、道内外の子ども交流会にも参加し、交流を深め、多様な湿地について学んでいます。このジュニアガイドの活動は、年間を通じて行っていて、5月の花の観察、6月の砂金掘り体験、7月の野鳥観察、12月のオオワシの観察会、1月の耐寒キャンプなど、年間18回におよぶ活動を展開しております。

「タンチョウ・オオワシとの共生」の取組

2つ目は、「タンチョウ・オオワシとの共生」の取組です。タンチョウは、ここ数年増加していて、今年はクッチャロ湖の周辺で12羽のタンチョウが生息、そこでの繁殖も確認されています。私たちの地域は、北海道の北部、道北の中でも宗谷地域です。この宗谷地域でもタンチョウが生息できる環境をつくるにはどうすればいいのかと、講師を招いてのフォーラム等を開催しております。

オジロワシ、オオワシについては、カメラマンが路上駐車をする、あるいは周辺の牧草地に入ってしまうという問題も生じて、ワシへの負担が大きくなる、地域住民との軋轢も生じてくることがございます。しかし、この30年を契機に、ワシへの負担軽減、観光としての活用を、地域や関係者と協議会を作って、環境整備あるいはルールづくり、環境の保全と賢明な利用について意見を交わしているところでございます。

浜頓別町のワイズユースの取組は、まだまだ始まったばかりですが、多くの地域の皆さんの活動を学びながら、着実に進めていければと思っております。ご清聴、ありがとうございます。

(拍手)

6. まとめ

朝岡 菅原町長、どうもありがとうございました。実は今、想定外の事態に陥っておりまして、本来であれば市長さんたちは10分以上お話しされるだろうと想定していたのですが、予定より早く進行しております。市長さんたちに作っていただいた時間だと感謝いたしまして、この後は会場の皆さんからご感想を兼ねて、ご質問やご意見をうかがいたいと思います。

全体のご質問、ご意見、ご感想の前に、1点だけ。先ほどポスター交流会の冒頭に、日本国際湿地保全連合(WIJ)の名執会長が湿地自治体認証についてお話されましたが、せっかく時間ができましたので、名執さん、言い足りなかったこともあると思いますので、皆さんに自治体認証の話をさせていただきますでしょうか。

日本国際湿地保全連合 名執芳博 日本国際湿地保全連合の名執と申します。皆さんご存じの通り、2015年のラムサール条約の第12回締約国会議で「湿地の自治体認証」というスキームができ、この決議を踏まえて、昨年、ドバイで開催された第13回の締約国会議で世界の18の



自治体がラムサールの湿地自治体認証を受けたところでは。

ラムサールの湿地登録は点の登録ですが、自治体認証は、湿地を含む自治体全体がラムサールに認証されるという面の登録とっていいかと思ひます。面としての自治体は、湿地や水などを賢明に使っている表れ、国際的な認証だと思ひております。日本では、まだあまり知られていませんが、あちらにポスターを用意し、条約事務局から出ている認証のための国際基準や応募のスケジュールなどを日本語にした紙も置いてありますので、ご関心があれば見ていただければと思ひております。

応募の様式が定まっています、国際基準のそれぞれの項目を満たしているかを評価するため、基準の項目ごとに記載が求められています。また、2021年にはラムサール条約の次回（第14回）の締約国会議が中国で開催されますが、そこで認証を受けるためには、本年12月末までに認証を受けようとする自治体は日本のラムサール条約の管理当局になっている環境省に応募書類を提出し、それを来年3月15日までに環境省がラムサール条約事務局に提出する必要があります。応募書類にどのようなことを書いたらいいか、もし不明な点があれば、環境省なり私の方にお問い合わせください。いろいろお手伝いできたらと思ひていますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

朝岡 どうもありがとうございます。本来であれば、きちんと時間を取ってラムサール条約登録湿地をお持ちの自治体の皆さんにご説明の方がいい案件ではありますが、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の枠組みにかかわる大事な認証制度ができたと思ひていただければと思ひます。

これまで、湿地そのものは登録されても、その湿地を持つ自治体の枠組みで登録するということはありませんでした。例えば、琵琶湖に面した自治体はすべて当然対象になる。EUがありますけれども、これからRU、ラムサール連合のようなものが自治体間でできる可能性がある。湿地の保全と併せて、自治体の地域づくりを積極的に進めていく。そういう可能性があると思ひます。

ぜひ、この市町村会議でもご議論いただきたいと思ひます。先ほどからご紹介している法政大学の笹川先生は、日本湿地学会の部会の会長をやっておられ、学会としても自治体認証に積極的に取り組もうという動きがあります。何かご関心があれば、WIJ等にお問い合わせください。それでは、会場の皆さんからご感想をいただきたいと思ひます。想定していなかった事態ですので、どなたにも事前にはお願いしていません。「我こそは」と思ひ方は、ぜひご感想で結構ですので、お願いしたいと思ひます。挙手いただきたいのですが、いかがでしょうか。

こういう時に手を挙げて称賛された、朝ドラにあったファーストペンギンに日本人はなかなかない。そうこともあろうかと、事務局にお願いして、指名したらきつと感想を言ってくれるに違いないというリストがございますので、指名されたら拒否せずに、ぜひご感想をお願

いたします。最初にお願いしようと思いますのは、屋久島町の観光まちづくり課長の竹之内さん、いらっしゃいますでしょうか。では、感想で結構ですので、よろしくお願いいたします。

鹿児島県屋久島町観光まちづくり課長 竹之内 大樹

みなさんこんにちは。昨日はマガンのねぐら入りを見させていただきました。屋久島は南国で、2,000m 近い山がございまして、冬場には雪も降ります。しかし、昨日の寒さにはちょっとびっくりしました。頭の血管が凍ったようで、やはり東北地方で生活するというのは、我々には想像できてもなかなか経験がないので大変だなあと思いました。同じ日本列島の中で、ラムサール条約に登録されている屋久島は、湿地ではないですが、アカウミガメが北半球でもっとも上陸するということで、外海でラムサール条約に登録されております。



今回、2 人来ておりますが、本来なら町長が出席して屋久島の PR 活動をしていただくといのですが、各市長さんがラムサール条約登録湿地、そして地域振興に向けて一生懸命 PR している姿に感動したところでございます。次回は、できればうちの町長が来て、屋久島の取組について語ってもらえればと思っております。本日は本当にありがとうございました。

朝岡 竹之内さん、どうもありがとうございました。次々と無茶ぶりをさせていただきたいと思えます。ブレインストーミングではないですが、話したいことが出たら、遠慮なく挙手をお願いします。それでは次に、美祢市の文化財保護課長の井上さん、いらっしゃいますでしょうか。よろしくお願いいたします。

山口県美祢市 文化財保護課長 井上 辰巳



山口県美祢市から参りました、文化財保護課長の井上と申します。美祢市においては秋吉台地下水系ということで、ラムサール条約に登録されております。他の自治体と比べて目に見える部分が大変少なく、観光鍾乳洞としての利用、あるいは日本ジオパークとしての利用と、様々な形で利用するように取り組んでいるところでございます。

本日、各自治体様のいろいろな取組等を聞かせていただいたことを持ち帰り、今後の参考にさせていただけたらと思っております。昨日、今日 2 日間、どうもありがとうございました。

朝岡 はい、ありがとうございます。もうひとつ、指名したいと思います。大分県九重町の商工観光・自然環境課長さんの友松さん、いらっしゃいますでしょうか。よろしくお願いいたします。

大分県九重町商工観光・自然環境課長 友松 直和



こんにちは。大分県九重町の友松でございます。昨日今日と初めて参加させていただきました。商工観光・自然環境課長になって2年目で、月も浅いのですが、いろいろと勉強させていただきました。

特に、本日の講演の中で、従来の考えにとらわれずに、どのようなワイズユース、賢明な活用の仕方があるかということは、大分県九重町を含めて大きな課題だと考えております。住民と一緒にした活用を含めて検討していきたいと思います。いろいろありがとうございました。

朝岡 はい、ありがとうございます。南の方と西の方のご指名が続いて申し訳ないのですが、最後に菅山さんに感想をお願いしますので、心の準備をお願いします。それではもうひとつ、今年、ラムサール条約の登録湿地になりました江戸川区の環境部長の高原さん、いらっしゃいますでしょうか。よろしくお願いいたします。

東京都江戸川区 環境部長 高原 伸文

江戸川区の高原でございます。既に52の登録湿地がございますが、ほとんどが、というかほぼ全てだと思うのですが、もともとの自然をそのまま登録されて、保全や利活用されている。それと比べると、私ども江戸川区の場合は、人工の海浜公園としてよみがえらせ新たに登録湿地として仲間に入れさせていただいて、今日も会議に参加させていただいております。それぞれの取組を勉強させていただきました。まだまだ後発ですが、いろいろなことができるかなと感じたところです。



江戸川区は今、庁舎を移転させる計画があるのですが、先ほどの菅山部長さんのお話の中で「役所を湿地に」というのがあって、なるほどと思いました。水害への備えもあり、現実的に考えるといろいろあるだろうと思いますが、柔軟な発想のなかで、利活用をしっかりと考えていかなければならないと、思いをはせた2日間でした。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

朝岡 まだまだご感想をお聞きしたいのですが、突然のご指名は4つの自治体で終わりたいと思います。先ほど予告させていただいた菅山さん、最後にコメントをお願いします。

菅山 はい、今日は、本当に機会をいただき、私のような者の話を聞いていただき、ありがとうございました。全体を拝見していて、皆さんの市町村、実はすでにいっぱいいろんなことをやっていらっしゃると思うんです。様々なことをやっていらっしゃる。皆さん、もっともっと前向きにやらなきゃならないと、自分たちに課題を課していると思うのですが、ちょっと立ち止まって、十分やっていることを認識して、自分たちを誉めたいと思います。未来に向けて、もうちょっとやれることがあったら、まあやってみようかなというくらいのゆったりとした気持ちでいいのではないのでしょうか。一回一回、あれ足りない、これ足りないと考えている



とすごく嫌になっちゃうから、これはマインドフルネスなんですけど、まず今日やっている自分に満足する。今日やっている活動、みんないろいろやっているじゃないですか。それを良かったと思うことにして、その先の未来に、もうちょっとやるとしたら何ができるのかなと考えて、今日を誉めて明日に楽しくスキップしていくみたいな感じで、未来にもっていけたらいいんじゃないかなと思いました。

湿地ってすごく脆弱で、開発しようと思うとできてしまう。しかしそこにはたくさんの宝があることを未来の人たちにどう伝えたらいいのか、私もこの先、考え続けていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

朝岡 菅山さん、どうもありがとうございました。本当は私のコメントの時間は5分しか与えられていなかったのですが、何の用意もしてないのですが、少しだけお時間をいただいて、3年間、学習・交流会のコーディネーターをさせていただいて思ったことを述べさせていただこうと思います。

残された湿地を大事に そこからまちづくりを

冒頭に、趣旨説明させていただきましたが、ラムサール条約登録湿地を持っていることは、自治体にとっては宝だと思います。先ほど、大崎市長の伊藤市長さんが「宝がたくさんある」と言われました。それぞれの自治体にはたくさんの宝があることは確かで、湿地という宝は、まさに重要なものであらうと思います。

かつて、湿地は、迷惑な、使えない荒れ地で、それを干拓して耕地にしたり、宅地にしたり、工場用地にしたりしてきました。今、残っている湿地は、そういう意味では開発から取り残された湿地、まさに谷津干潟が典型だと思いますが、そういう所なんですね。もっと開発が進ん

でいれば、今の湿地がすべて無くなっている可能性があった。それを、たまたま開発が遅れたことによって、残った。これをむしろ典型と考えて、残された湿地を大事にしながら、そこからもう一度まちづくりを考えていくのがいいのではないかと思います。

ただ、今回、基調報告をお願いしました菅山さんのように、もう少し我々は湿地という枠組み、まちづくり、役所という行政システムを含めて、柔軟にいろいろなことを発想して、楽しくやったらいいのではないかと私も考えております。

実際には、市長さんをはじめ、役所の皆さんは責任が問われますので、菅山さんのように企画、プランニングをやっている方や、私どものような学者のように無責任におもしろがってられないのは、わかります。しかし、市民はいろいろな思い、いろいろなアイデアを持って、湿地を見ているはずです。今は、何らかの接点をもって湿地に関わりを持つようになると、「ああしたらいい」「こうしたらいい」と、必ずおっしゃるはずです。私もよく経験していますが、役所から最初に聞く言葉は「できません」「無理です」、役所とはそういうもの。そういうところからなのです。



多様性を受け入れて湿地とともに宝物として活用を

菅山さんの話は、十人が十人、何を考えているんだと言われたところから始まる。それがおもしろい。アイデアは、そういうものです。イノベーションという言い方もありますが、この時代状況、少子高齢化、地方の人口減少、外国人の方もたくさん日本に定住するようになった。日本は移民政策をとっていませんが、労働し生活する権利を日本政府は認めています。少しずつ、外国人と一緒に地方で暮らすということが起こってくる。多様化が進んで、いろいろな発想、いろいろなアイデア、いろいろな能力を持った人が、どんどん地域の中に入ってくる。その多様性を受け入れて、湿地とともに宝物として活用できるかどうか、これからのまちづくりにはかかっているのではないかと思います。「これはダメ」というより、むしろおもしろがって、やれるところまでやってみる。そういうところからまちづくりを始めてもいいのではないかと思います。

先ほど、WIJの名執さんに自治体認証のお話をさせていただきましたが、ラムサール条約をはじめ、いろいろな国で少しずつ変化しています。その変化に対応することとは別に、その変化をチャンスとして、ラムサール条約登録湿地を活用したまちづくりは、まだまだいろいろな形でできるのではないかと思います。

当初、この3年間でダムカードのような形のラムカードを作ろうとお話ししてきのですが、いろいろな事情で今年、できていません。カードというやり方自体が枠組みにはまりすぎたものではないか。もっともっとおもしろいアピールの仕方、住民の皆さん、市民の皆さんと一緒に、楽しみながら登録湿地を活用する方法があるのではないかと、今日話を聞いて思いまし

た。

最後に無茶ぶりして、何人かの方にご発言いただきましたが、先ほどポスター交流会があったように、ポスターを貼ったらいいのではないかとということも、苦肉の策として1か月くらい前に思いついて、各自治体をお願いして貼っていただいたという経緯があります。やってみると、なかなかおもしろかったと思っていただけるたではないかと思います。

来年度から会長市が栃木市に移り、市長村長会議は3年後となりますが、3年後、この市町村長会議で、どんなものが生まれるのか、ぜひ楽しみに、引き続き学習・交流会にご参加いただければと思います。本日の学習・交流会はここで締めさせていただきます、最後に事務局からご連絡があれば、お願いいたします。

7. 閉会

大場 ありがとうございました。本日のご講演をいただきました菅山先生、報告をいただきました各首長様方、コーディネートをいただきました朝岡先生、大変ありがとうございました。今一度盛大な拍手をお願いしたいと思います。（拍手）

以上を持ちまして、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議第11回学習・交流会を終了させていただきます。ここで事務局より連絡がございます。このあと、12時30分に古川行きのバスが出発します。これから下の方に誘導しますので、乗り遅れのないよう、お気をつけてお帰りいただきたいと思います。本日の会議にあたり、習志野市様から人参ジュース、名古屋市様からお水を頂戴しております。出口に置かせていただいておりますので、皆様お持ち帰りいただければと思います。本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。（拍手）



Ⅲ. 宮城大崎宣言

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議

宮 城 大 崎 宣 言

私たち、ラムサール条約登録湿地関係市町村は、世界農業遺産に認定された豊饒の大地「大崎耕土」を潤し、古より遊水地や灌漑用ため池として人々の生活を支え、ガン類などの渡り鳥を始めとした多様な生物を育む「蕪栗沼・周辺水田」及び「化女沼」を有する大崎市に集い、湿地の保全や賢明な利用、湿地を活かした持続可能な地域づくりについて学習し、交流する機会を得ました。

本地域は、人の営みの中で作り上げ、保全されてきた人工湿地である水田地帯が広がり、先人の知恵により築かれた水管理システムによって潤い、湿地の恵みである豊かな農産物を享受してきました。同時に、地元農家の理解と協力を得ながら水田農業において、農業の営みと生物多様性やガン類など希少種との共生を両立してきました。

平成 17 年にはそうした水田の環境としての重要性が認められ、蕪栗沼が周辺の水田と一緒にラムサール条約湿地に登録され、平成 20 年には、ラムサール条約第 10 回締約国会議「湿地システムとしての水田における生物多様性の向上（水田決議）」に至りました。

水田農業は二千年以上にわたり脈々と受け継がれて来ました。環境負荷を減らし、多様な生きものに目を向けたワイズユースの一つであり、本地域においても持続可能な地域づくりの根幹として推進しています。

日本国内には多様な種類の湿地が存在し、多面的な機能を持つ湿地は、人々の生活や産業を支え、防災・減災の働きや学びの場などの恩恵をもたらし、豊かな生物多様性を育んできました。一方、近年の産業構造や生活様式等の変化に起因した湿地環境の悪化による多面的な機能の低下が懸念されております。

そこで私たちは、貴重な湿地を保全するとともに、湿地を活かした持続可能な地域づくりを目指すために以下の点に取り組むことを決意しました。

- 1 湿地の歴史や文化、恩恵などの価値や魅力をより多くの人へ発信し、市民一人ひとりに湿地への関わりを促すことで、価値や魅力に気付くきっかけとし、保全意識の醸成を推進します。
- 2 関係主体間の交流により、それぞれの湿地が持つ課題や取組みを共有し、各湿地をつなぐ人の循環をつくることで、課題の解決につながる取組みを推進します。
- 3 地域的な課題と世界的な課題のつながりを意識し、関連する条約や地域の特色ある産業や施策と連携・連動させ、取組みを波及させることによって、持続可能な開発目標 (SDGs) 等を目指す世界的な課題の解決に資する、持続可能な地域づくりを推進します。

現在、国内の条約湿地は 52 箇所まで、会員数は 70 市区町村まで拡大しました。これらの取組みを推進することで、「湿地は地域の宝」という認識が更に広範囲へ広がり、既存の登録湿地の保全活用が図られることを期待します。

令和元年 11 月 19 日

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議会長 大崎市長

伊藤康志

釧路市長	蛭名 大也
釧路町長	小松 茂
標茶町長	佐藤 吉彦
鶴居村長	大石 正行
栗原市長	千葉 健司
登米市長	熊谷 盛廣
浜頓別町長	菅原 信男
苫小牧市長	岩倉 博文
浜中町長	松本 博
厚岸町長	若狹 靖
習志野市長	宮本 泰介
加賀市長	宮元 陸
近江八幡市長	小西 理
高島市長	福井 正明
長浜市長	藤井 勇治
新潟市長	中原 八一
那覇市長	城間 幹子
豊見城市長	山川 仁
美唄市長	板東 知文
名古屋市長	河村 たかし
飛島村長	久野 時男
豊富町長	河田 誠一
幌延町長	野々村 仁
雨竜町長	西野 尚志
網走市長	水谷 洋一
小清水町長	久保 弘志
根室市長	石垣 雅敏
別海町長	曾根 興三
標津町長	金澤 瑛
三沢市長	小檜山 吉紀
檜枝岐村	星 明彦
片品村長	梅澤 志洋
魚沼市長	佐藤 雅一
日光市長	大嶋 一生
若狹町長	森下 裕

美浜町長	戸嶋 秀樹
串本町長	田嶋 勝正
松江市長	松浦 正敬
美祢市長	西岡 晃
竹田市長	首藤 勝次
九重町長	日野 康志
薩摩川内市長	岩切 秀雄
屋久島町長	荒木 耕治
渡嘉敷村長	座間味 秀勝
座間味村長	宮里 哲
石垣市長	中山 義隆
鶴岡市長	皆川 治
阿賀野市長	田中 清善
久米島町長	大田 治雄
七飯町長	中宮 安一
古河市長	針谷 力
栃木市長	大川 秀子
小山市長	大久保 寿夫
野木町長	真瀬 宏子
板倉町長	栗原 実
加須市長	大橋 良一
立山町長	舟橋 貴之
敦賀市長	渕上 隆信
豊田市長	太田 稔彦
豊岡市長	中貝 宗治
廿日市市長	松本 太郎
荒尾市長	浅田 敏彦
宮古島市長	下地 敏彦
茨城町長	小林 宣夫
中之条町長	伊能 正夫
佐賀市長	秀島 敏行
鹿島市長	樋口 久俊
南三陸町長	佐藤 仁
江戸川区長	斉藤 猛
大崎市長	伊藤 康志

湿地を生かした地域づくりとそのしかけ

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議
第 11 回学習・交流事業の記録

2020 年 3 月

発行：ラムサール条約登録湿地関係市町村会議
会長市：宮城県大崎市

〒989-6188 宮城県大崎市古川七日町 1 番 1 号

産業経済部世界農業遺産推進課

TEL：0229-23-2281 FAX：0229-23-7578

編集：特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 17-1 城野ビルⅡ 2 階

TEL：03-5614-2150 FAX：03-6806-4187